



# SOCIAL ENTREPRENEURS IMPACT REPORT

in TOHOKU 東北社会起業家が生み出すインパクト

# SOCIAL ENTREPRENEURS IMPACT REPORT in TOHOKU

東北社会起業家が生み出すインパクト

これまで  
実践者たちが創出してきた  
社会インパクトを可視化し、  
域内外、そして世界に  
向けて発信します。

SOCIAL  
ENTREPRENEURS  
IMPACT REPORT  
in TOHOKU  
東北社会起業家が  
生み出すインパクト

目次

## 1. Prologue

序文 FOREWORD .....	6
ハーバードは東北で何を学んだか？ .....	8
竹内 弘高 / ハーバード・ビジネス・スクール 経営大学院教授	
INTILAQ について .....	10

## 2. Impact Summary

インパクトレポートの目的と概要 .....	14
数字で見る東北の社会起業家 .....	16
東北の社会起業家が見る数字 .....	20

## 3. Social Entrepreneurs

復興と産業発展 .....	22
若者の希望 .....	38
子育て環境 .....	46
社会・障害福祉の充実 .....	52
地域の社会資本 .....	58
多様性と働き方 .....	64
"生きたインフラ" 東北の社会起業家が育み支える社会 .....	78
東北社会起業家が生み出すインパクト	
震災から10年、科学は課題解決に貢献できたのか？ .....	80
青木 孝文 / 東北大学 理事・副学長	

## 4. Epilogue

現状の課題と今後のアクション .....	82
なぜ東北の地で多くの社会起業家が生まれるのか？ .....	84
竹川 隆司 / 一般社団法人 IMPACT Foundation Japan 代表理事	

# 1. Prologue

## 序文 FOREWARD

一般社団法人 IMPACT Foundation Japan は、2010年に設立された非営利の一般社団法人として、東北の社会起業家をはじめとしたさまざまなステークホルダーの皆さまとともに歩んできました。

2013年には被災地の援助を目的としたカタールフレンド基金からご支援をいただき、「東北での Entrepreneurial Ecosystem（起業家が生まれ育つエコシステム）の創造」というミッションに向けて、主に仙台を拠点に活動を続けています。東日本大震災の影響により社会課題が深刻化した東北の地で、その解決に挑戦する人や企業が生まれ、育ち、後に続く人たちのロールモデルになっていく、そのようなエコシステムの創造がソーシャル・イノベーションと地域の経済活性化を後押し、東北の真の「復興」へとつながると信じています。

2017年からは、仙台市が主催する SOCIAL INNOVATION Accelerator（社会起業家育成プログラム）の企画運営を担い、東北各地で想いを持って社会課題解決のために立ち上がろうとする人々を応援するプログラムを実施してきました。同プログラムは、ビジョンづくりやソーシャルインパクト検討のためのワークショップ、自身の想いと事業に向き合う全16回の基本講座、東北でチャレンジを続ける先輩起業家訪問などにより構成されています。参加者は、講座を受講しながらメンターと1対1で事業計画を磨き上げ、その成果を東北最大の起業家イベント SENDAI Social Innovation Summit で発表します。2021年度で5期目を迎える SIA プログラムの卒業生は48名を数え、それぞれの地域と分野で活躍されており、エコシステムは広がり続けています。

本ソーシャル・インパクト・レポートでは、SIA プログラム卒業生と先輩起業家であるココロイキルヒトリーダーズを取り上げて、これまでの活動成果を定量的に評価し、仙台・東北圏の関係者を中心に広く発信することを目的としています。東北で活躍する社会起業家たちが、どの地域で、どんな想いを持って、どのような社会課題の解決に取り組んでいるのかについてその具体的内容とインパクトを明らかにし、ソーシャルイノベーションに関する知見とともに共有することで、地域経済圏やご関心のある個人・組織と連携促進のツールとしてご活用いただければ幸いです。

本レポートを通じて、社会課題解決と持続可能なビジネスの両立の実現をめざす東北の起業家たちのさらなる活躍を多くの皆さまと一緒に応援しあい、東北、そして日本全体の Entrepreneurial Ecosystem の発展に寄与できることを、切に願っております。

# ハーバードは東北で何を学んだか？

仙台ソーシャルイノベーションサミット 2022 キーノートスピーチより



2011年の東日本大震災から、一歩ずつあゆみを進めてこられた東北の皆さまの軌跡が、この度ソーシャル・インパクト・レポートという形で実を結びましたこと、謹んでお慶びを申し上げます。

さて、私が教鞭を執ってきたハーバード・ビジネス・スクール（以下、HBS）は、130年程の歴史を持つ2年制の大学院で、毎年900人の学生が卒業していきます。ここでの授業は、具体的なビジネスケースに関するディスカッションをベースとしたケースメソッドを採用しており、テキストもレクチャーもありません。2012年からは東北や中国、インドなどでのフィールド・スタディを取り入れた授業でも単位を認定しています。フィールド・スタディでは、学生は6カ国程度の中から自分でフィールドを選び、1ヶ月の休暇期間を活用して2週間現地に行きます。

こうした取り組みは、2010年にHBSの学長に就任したニティン・ノーリア氏の「Knowing - Doing - Being」という考えのもと推進されてきました。彼は、Knowing(知識)はケーススタディを通じて提供できるが、究極的に学生に提供したいのはBeingの価値だと考えています。Beingとは、稲盛和夫氏の言葉を借りれば「生き方」と

## Knowing (知識) はケーススタディを通じて提供できるが、究極的に学生に提供したいのはBeingの価値

も言えるかもしれません。Beingが形づくられていくためには、学生が実際に自分の目で見たり、聞いたり、実践したりという経験をする必要があります。そうした哲学を背景にこのフィールドスタディが始まり、1年目はImmersive Experience Program (IXP) として、現在はImmersive Field Course (IFC) という名前で学生に提供しています。

この場をお借りして、2012年以降、フィールド・スタディを通じて東北を訪れたHBSの学生たちがどんなことを学んできたかについて、3つご紹介いたします。

1つ目は、パブリック・プライベート・パートナーシップ (PPP) の在り方です。学生たちは、毎年宮城県牡鹿郡の女川町を訪れ、必ず町長にお会いしています。女川町では、いわゆる官民連携の形を超えて、町長ご自身が町内の方々と密なコミュニケーションを取ることをとても

大切にされていらっしゃいます。毎晩のように、町長が町の人たちと食事を共にして言葉を交わすことで、一番確かな形で意見交換をされている。学生たちはそうした関わり合いから、行政と民間、つまりパブリックセクターとプライベートセクターがパートナーシップを組み、何らかのイノベーションを起こそうとするときに求められる姿勢や体制について学ばせていただきました。

2つ目は、「世のため人のため」という生き方です。学生たちは毎年、必ず1つか2つの高校を訪れます。そこで出会った高校生たちは、被災当時はまだ10歳前後だったでしょう。彼、彼女たちにHBSの学生が「将来は何になりたいか」と質問をすると、「世のため人のためになることがしたい」という返事が返ってきます。参加したHBSの学生たちそれぞれの母国では、高校生がそういった視点で自身の将来を考えていることは少ないようで、大きな感銘を受けたようです。もちろん、社会貢献の意識を持った学生もたくさんいますが、まだ幼い頃に被災した体験から、看護師や医師になることをめざしているような東北の若者たちに、毎年多くのことを学ばせていただいています。

3つ目は、ここ4年ほど訪れているINTILAQで会う起業家たちとの交流です。こちらでは、HBSの真髄でもあるケース・メソッドを、実際にINTILAQの起業家たちと事業について話し合う形で実践しています。どうやったらそれぞれのビジネスをさらに良くしていけるかを真剣に議論する中で、ソーシャル・アントレプレナーの考え方や「ソーシャルの原点」のようなものにふれさせていただいています。

## 東北で生きる社会起業家の皆さまが世界に対して提供できるのは、まさしく「賢い資本主義」の経営手法と本質的なソーシャルイノベーションの在り方

我々もともと、「シェアホルダー・バリュー」という、株主価値を最大化させることに重きを置いて学生に教えていたわけですが、実際に東北に来た学生たちはKnowingのみならず、そこで出会うおひとりおひとりのDoing、そしてその根っこにある「世のため人のため」といったBeingを体感・経験してきました。世界の流れにも変化が起きています。2020年のダボス会議では、シェアホルダー・バリューから、「ステークホルダー・バリュー」を最重視する動きが生まれてきました。これは、顧客、サプライヤー、地域コミュニティ、そして社会の価値の最大化を大切にするという考え方です。我々はそれを「Wise Capitalism」「賢い資本主義」と呼んでいますが、東北で学んだ学生たちは、その源流は東北にあると確信しています。

めまぐるしく変化する世界の中で、東北で生きる社会起業家の皆さまが世界に対して提供できるのは、まさしく「賢い資本主義」の経営手法と本質的なソーシャルイノベーションの在り方だと信じております。皆さまの益々のご活躍とご発展にご期待申しあげ、お慶びと奨励のこぼとさせていただきます。

### ハーバード・ビジネス・スクール

経営大学院教授  
国際基督教大学  
理事長

一橋大学  
名誉教授

## 竹内 弘高

1976年ハーバード・ビジネス・スクール講師、1977年カリフォルニア大学バークレー校にて博士号取得。専門分野は競争戦略、知識経営、マーケティング（新製品開発）、国際ナショナル・ビジネスなど。野中郁次郎氏との共著「The Knowledge-Creating Company」は1995年度の全米出版協会のベスト・ブック・オブ・ザ・イヤー賞（経営分野）を受賞。



# INTILAQ について


## 活動実績

主催イベント・  
ワークショップ  
参加者累計



**+5000**人

社会起業家の  
立ち上げ・  
成長支援



**+100**人

大企業人材や  
プロボノの  
マッチング



**+200**人

## 活動概要

**施設運営**

コワーキングスペースやシェアオフィスなど仕事場としてのご利用はもちろん、貸会議室やキッチン、スタジオなど、一般の方でも時間貸しでご利用いただけます。

**起業家育成プログラム**

起業家育成のためのイベント・ワークショップの企画・運営、ならびに起業に向けたコンサルティング&アドバイスサービスを提供しています。

**キャリアモデル開発センター仙台**

より創造的で豊かな人生の実現のためあなたらしいキャリアの歩むお手伝いをしています。

## 運営組織

**一般社団法人 IMPACT Foundation Japan**

IMPACT Foundation Japan は、次世代グローバルリーダーの育成を目指し、2010年に設立された法人。これまでも、世界的なトークイベントの『TEDxTokyo』、高校生が世界と出会う機会を提供するサマースクール『HLAB』のような革新的プロジェクトを企画・運営。2013年より、カタールフレンド基金の復興活動プロジェクトに『INTILAQ』を提案し、現在は同基金から支援を受け、起業家育成・支援の活動を行う。



ココロイキルヒト  
心意気る人  
心生きるひと

**BE MOVED & BE MOVED**

INTILAQ は、「起業家育成・支援」を目的とした活動です。

起業家のみならず、小中高生、大学生、主婦の方も含め新しいことにチャレンジする「マインドの育成」、アイデアやビジネスチャンス創出のための「きっかけの場づくり」、そしてオフィスや資金提供まで、総合的に「ココロイキルヒト」を支援しています。

心意気(チャレンジ)、心生きる(感動する)など複数の意味を有する東北起業家を指したオリジナルのコトバです。東北をきっかけとした「姿」がこのコトバにはあり、他人事ではない自分ごとであることに気づきをもたらすコトバです。

既成の枠組みや考え方越えて新しい東北を創り出す心意気を支援し、この活動を日本のみならず、世界に向けて発信していきます。

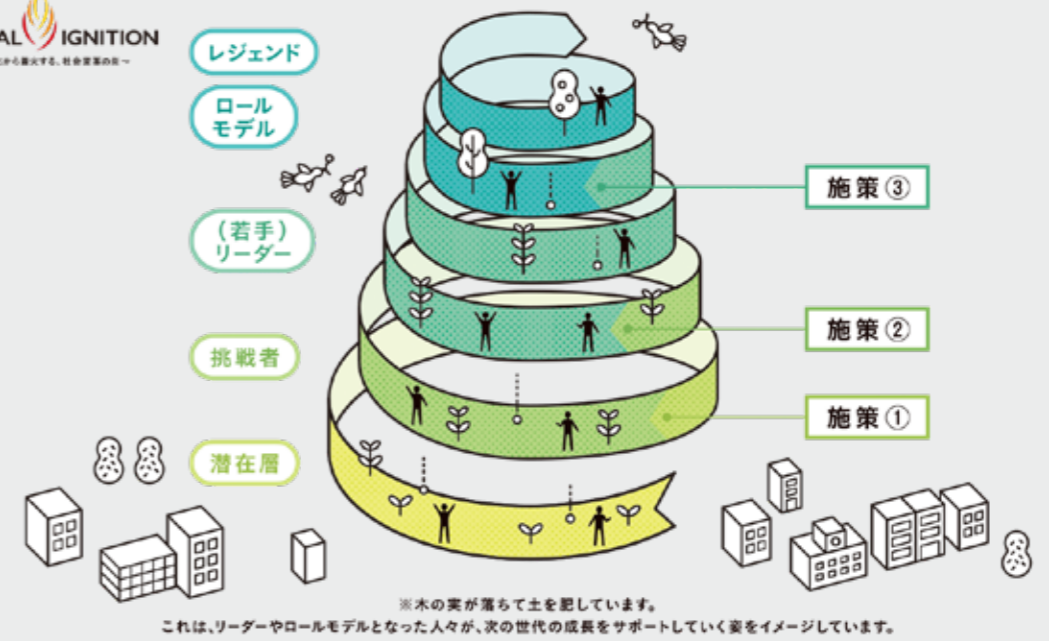




# TOHOKU Social Innovation Accelerator

社会起業家育成プログラム

SOCIAL IGNITION  
～東北から燃え広がる、社会変革の炎～



2017年からの  
累計卒業生数  
**48**人

## 東北 SOCIAL INNOVATION ACCELERATOR について

## SOCIAL INNOVATION について

### ココロイキルヒトが集い、共に高め合う半年間

仙台市主催で、一般社団法人 IMPACT Foundation Japan が運営する社会起業家の育成・支援プログラム。SOCIAL IGNITION 事業の一環として開催され、同プログラムでは半年間にわたってオンラインとリアルのハイブリッドによる全16回の基本講座と、本プログラム卒業生であるメインメンターとの個別のメンタリングを通して、社会課題・地域課題解決に向けた伴走サポートを提供します。

同プログラム卒業生は、仙台市と INTILAQ が取り組む「SOCIAL IGNITION」事業の一環で取組みを紹介するイベントや、大手企業人材やプロボノ人材とのマッチング等の支援を受け、ココロイキルヒトのコミュニティの一員として東北のソーシャルイノベーション促進の一員となります。

### 育成・支援プログラム

- 基本講座① 開校式 + ビジョン講義 (リアル)
- 基本講座② ビジョン作成 WS Day1 (リアル)
- 基本講座③ ビジョン作成 WS Day2 (リアル)
- 基本講座④ フィールドトリップ はまぐり堂 (リアル+オンライン)
- 基本講座⑤ ビジョン作成 WS Day3 (オンライン)
- 基本講座⑥ ビジネスモデル概論 (オンライン)
- 基本講座⑦ ビジネスプランについて (オンライン)
- 基本講座⑧ ビジネスプラン作成 WS (オンライン)
- 基本講座⑨ ソーシャルインパクト検討 WS (オンライン)
- 基本講座⑩ ビジョン・ビジネスモデル・ソーシャルインパクト 中間発表会 (リアル)
- 基本講座⑪ マーケティング基礎+マーケティング応用 (オンライン)
- 基本講座⑫ プレゼンテーションのキモ (オンライン)
- 基本講座⑬ 動画資料に関する説明会+動画作成レクチャー会 (オンライン)
- 基本講座⑭ 動画資料 + ビジョン + ビジネスモデル 発表会 (リアル)
- 基本講座⑮ SIA プログラム修了発表会 (リアル)
- 基本講座⑯ 本番リハーサル (バックアップ動画撮影会) (リアル+オンライン)
- 最終発表会 仙台市イベント 最終発表会

### 東北から着火する社会変革の炎

仙台市と INTILAQ が 2017 年度より「東北から着火する社会変革の炎」と称して、右記3施策を柱に開始した事業。同市は、震災を経て、助成の起業意欲の向上や社会起業の動きが活発化し、「女性活躍・社会起業のための改革拠点」として国家戦略特区に位置付けられた。その強みを生かし関係団体、社会起業家等の協力やそのネットワークを活用し、東北の実情を踏まえた人材の育成支援を図ることで、仙台を含む東北各地のソーシャル・イノベーション創出に資する社会起業人材輩出を目的としている。

### 今後の地域を担う人材やイノベーションを起こす人材を育て、着火し、持続可能な東北地域を目指します。

- 施策① 「一歩踏み出す」イベント、ワークショップの開催**  
地域のため、社会のため、自分も何かやりたい、という様々な想いを胸に抱えている方々を対象に、一歩踏み出すきっかけとなるイベントやワークショップをご提供します。
- 施策② アクセラレータプログラムの開催**  
一歩を踏み出した「ココロイキルヒト」を集中的に支援・育成を行うため、社会起業家アクセラレータプログラム (SOCIAL INNOVATION Accelerator :「SIA プログラム」) を企画、2017 年より実施しています。
- 施策③ ココロイキルヒトリーダーズの創設**  
SIA プログラムの採択者及び、これから社会課題解決を目指す人にとって「ロールモデル」的な存在となる東北で活躍されている諸先輩方を「ココロイキルヒトリーダーズ」と名付け、様々な形で一人一人の想いの実現にむけてご協力をいただいております。

## 2. Impact Summary

# インパクト レポートの 目的と概要

本レポートでは、ココロイキルヒトリーダーズと SOCIAL INNOVATION Accelerator (SIA) 卒業生へのアンケートとインタビューに基づき、それぞれの活動分類とその領域におけるインパクトを独自の観点から見える化しています。東北のココロイキルヒト・コミュニティの起業家が各地で生み出しているつながりとイノベーションについて、定量的かつ定性的にまとめています。

### 調査対象



## ココロイキルヒト リーダーズ

「ココロイキルヒト」とは、心意気(チャレンジ)、心生きる(感動する)など複数の意味を有する東北起業家を指したオリジナルのコトバです。東北各地にたくさんのココロイキルヒトがありますが、その中でも新たに起業を目指す人の想いの実現に協力してくれる方々を「ココロイキルヒトリーダーズ」と呼んでいます。



## SIA 卒業生

2017年からスタートした SOCIAL INNOVATION Accelerator (SIA) プログラムの卒業生。社会を少しでも良くしていきたいというあなたの想いを、Vision / Mission という形で言語化し、メンターが伴走しながら持続可能な形で事業計画に落とし込み、各事業計画の実現可能性を高めていくプログラムです。

### 解決を目指す東北の社会課題：分類と定義

## 復興と産業発展

- |   |    |   |
|---|----|---|
| A | 01 | <b>東日本大震災の復興</b><br>2011年3月11日に起きた東日本大震災の被災者や被災地の支援をはじめとした生活再建と復旧に関連する取り組み。 |
|   | 02 | <b>地域振興と経済の発展</b><br>地域資源の活用と雇用を通じた、地域コミュニティ及び地域経済の活性化に関連する取り組み。            |
|   | 03 | <b>農林水産業の衰退</b><br>進行する人口減少と高齢化の中で、第一次産業の発展と地域コミュニティの活性化に関連する取り組み。          |

## 若者の希望

- |   |    |   |
|---|----|---|
| B | 04 | <b>不登校・いじめ</b><br>学校におけるいじめや暴力行為等がきっかけで不登校や学びの機会を奪われてしまう課題の解決に関連する取り組み。           |
|   | 05 | <b>若者の将来に対する希望・肯定感の不足</b><br>若者が自身のアイデンティティを見出し、将来に対して希望を持ち自分自身の生き方と人生選択を支える取り組み。 |

## 子育て環境

- |   |    |  |
|---|----|--|
| C | 06 | <b>子育て環境と携わる人々の負担</b><br>子どもを産み育てやすい環境づくりを目的に、地域で子育て支援をする機会や携わる人々の負担削減に関連する取り組み。 |
|---|----|--|

## 社会・障害福祉の充実

- |   |    |  |
|---|----|--|
| D | 07 | <b>社会・障害福祉サービス及びその人材の不足</b><br>福祉サービスにおける人材確保や処遇改善を行い、働き手と共に利用者同士が支え合える環境づくりに関連する取り組み。 |
|   | 08 | <b>社会・障害福祉関係者へのサポートの不足</b><br>福祉サービスにおける利用者の家族や従事者のサポートを通じて、地域コミュニティ活性化に寄与する取り組み。      |

## 地域の社会資本

- |   |    |  |
|---|----|--|
| E | 09 | <b>コミュニティの希薄化と地域社会の衰弱</b><br>各地域社会の連帯意識を強化し、地域コミュニティの関わり合い増加と活性化に関連する取り組み。 |
|---|----|--|

## 多様性と働き方

- |   |    |  |
|---|----|--|
| F | 10 | <b>多様な働き方や人生の選択肢の不足</b><br>立場に関係なく、個人の生き方や働き方が尊重されながら多様な選択肢を実現できる機会づくりに関連する取り組み。 |
|   | 11 | <b>女性の労働人口・所得の低さと機会格差</b><br>女性が人生選択において幸せな生き方と働き方を考えられてそれを追求できる社会づくりに関連する取り組み。  |



# 数字で見る 東北の 社会起業家

## 参加社会起業家



ココロイキルヒト  
リーダーズ

10人



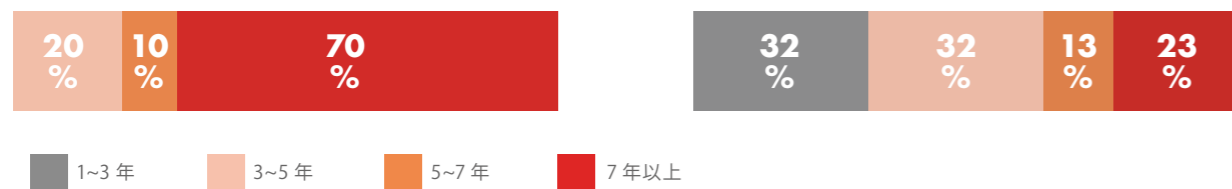
SIA  
卒業生

22人

## 法人種類割合



## 活動年数平均

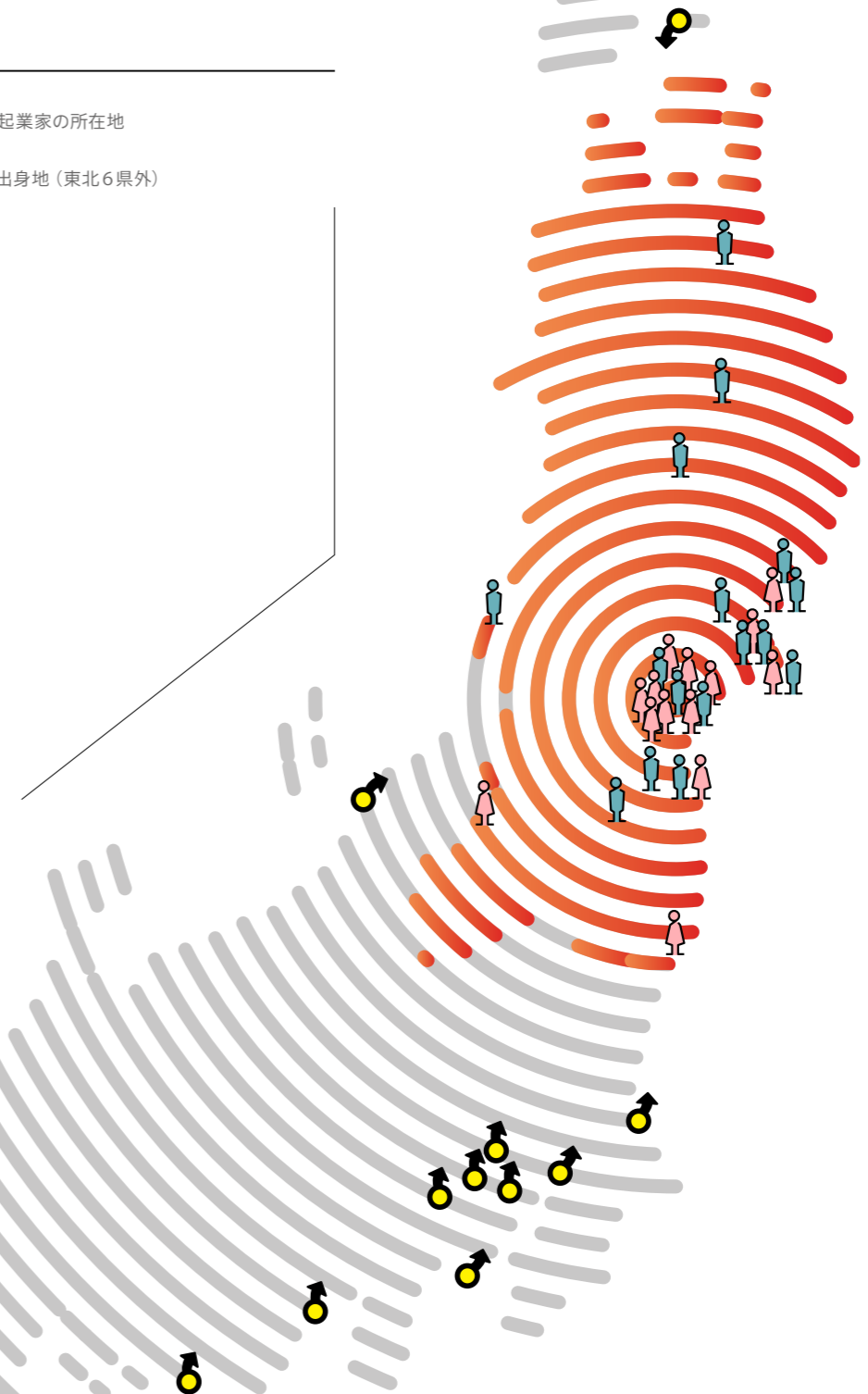


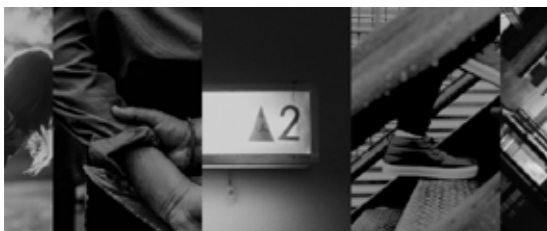
## 創業者の出身地



## 活動地域

- 参加社会起業家の所在地
- 創業者の出身地（東北6県外）

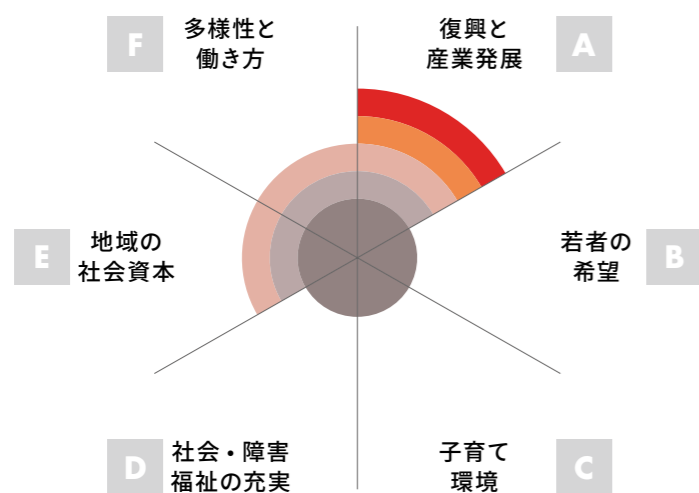




ココロイキルヒト  
リーダーズ

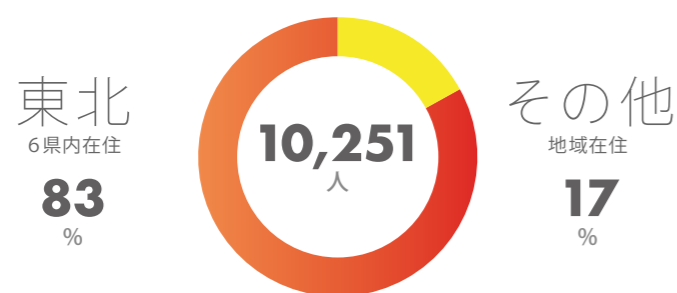
**10**人

解決を目指している社会課題



事業に参画する仲間

ボランティア、プロボノ、従業員、業務委託、アルバイト



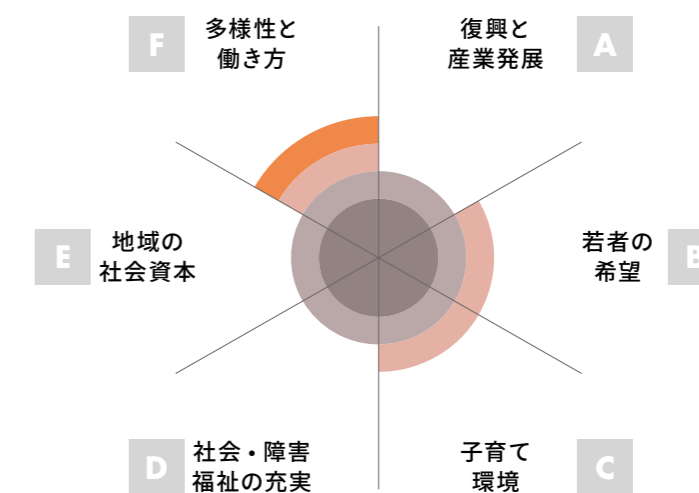
情報拡散量



SIA  
卒業生

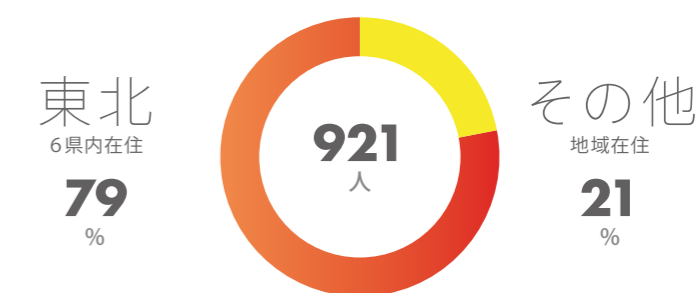
**22**人

解決を目指している社会課題



事業に参画する仲間

ボランティア、プロボノ、従業員、業務委託、アルバイト



情報拡散量



総支出合計額

**21.9**  
億円

年間予算



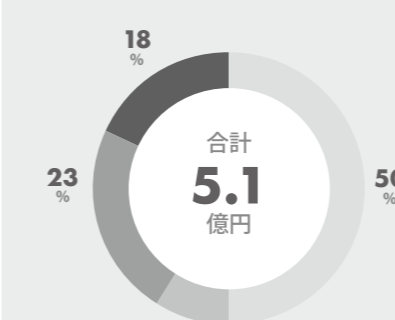
総資金調達額



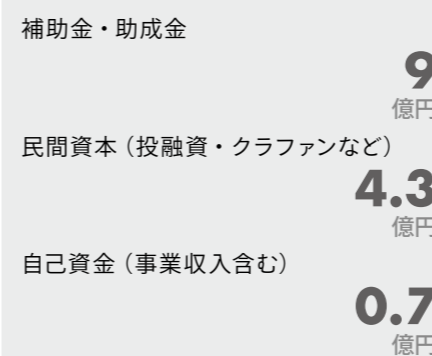
総支出合計額

**10.7**  
億円

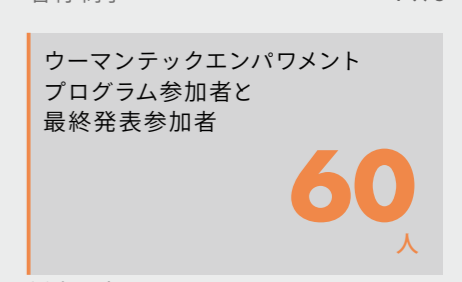
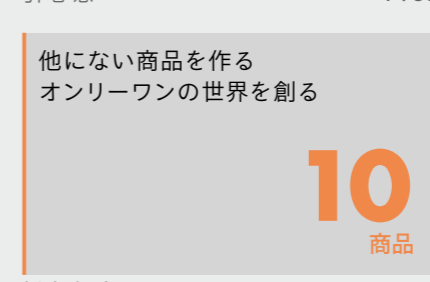
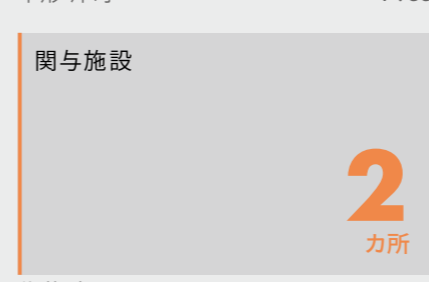
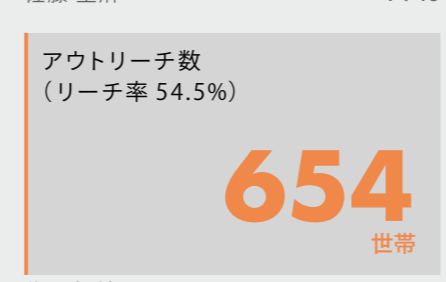
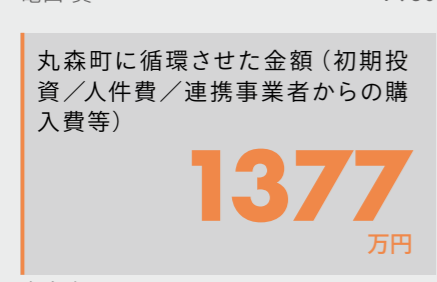
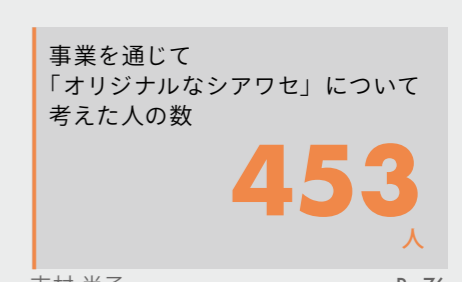
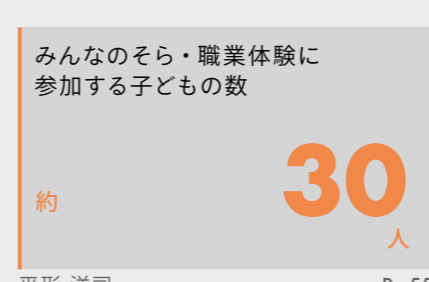
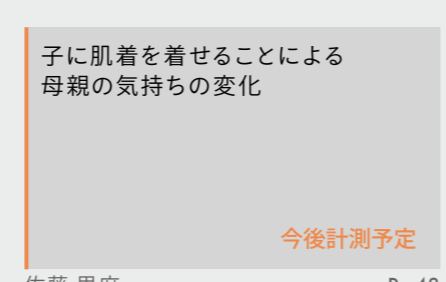
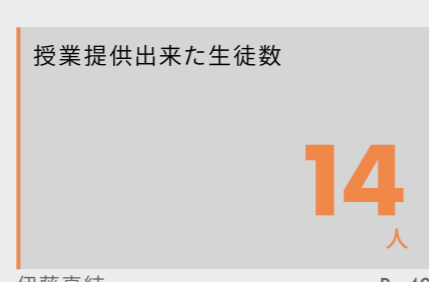
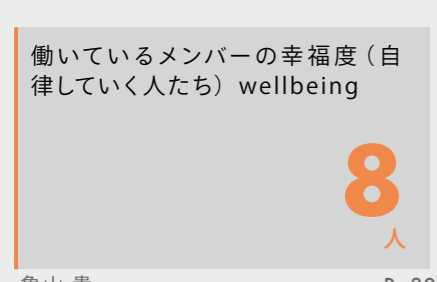
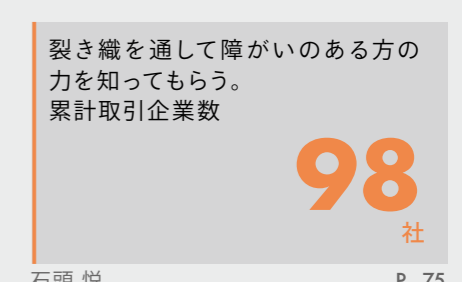
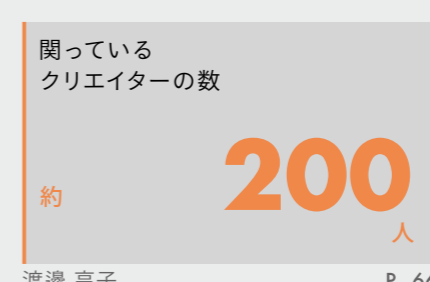
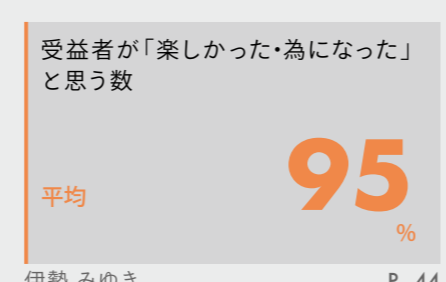
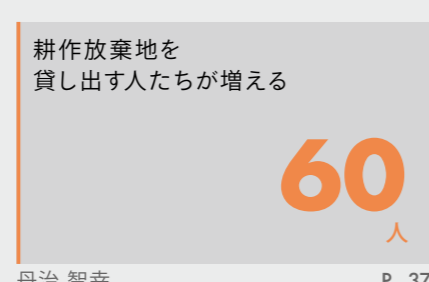
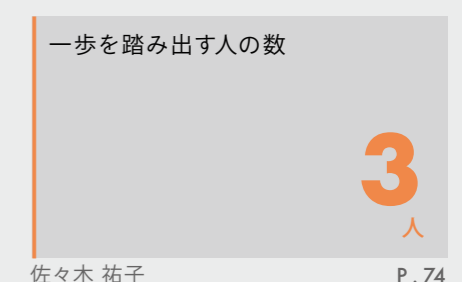
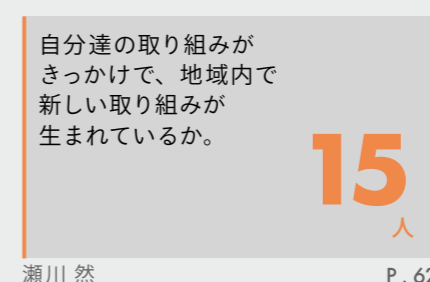
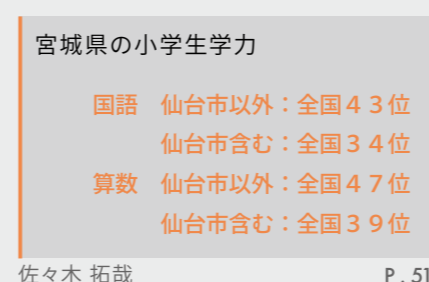
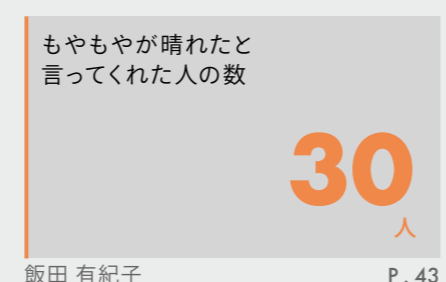
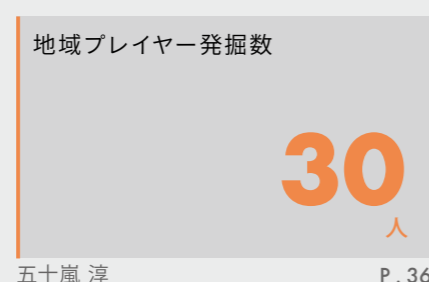
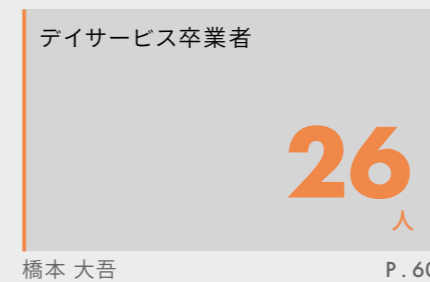
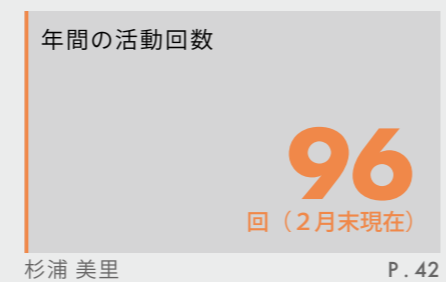
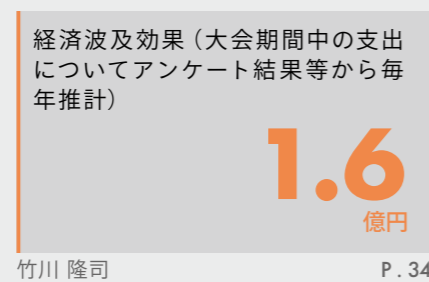
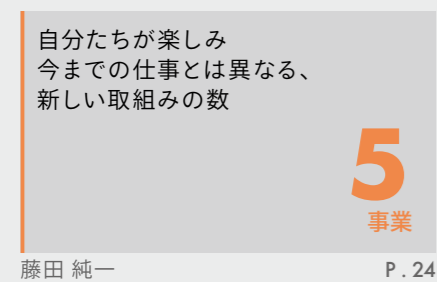
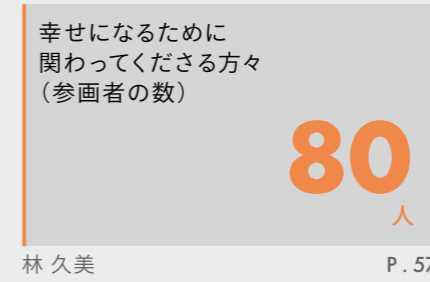
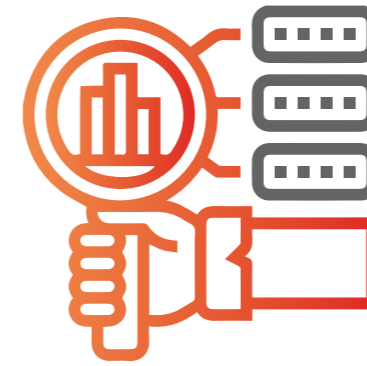
年間予算



総資金調達額



# 東北の 社会起業家が 見る数字



### 3. Social Entrepreneurs

解決を目指す東北の社会課題

## 復興と産業発展

A

01

#### 東日本大震災の復興

2011年3月11日に起きた東日本大震災の被災者や被災地の支援をはじめとした生活再建と復旧に関連する取り組み。

02

#### 地域振興と経済の発展

地域資源の活用と雇用を通じた、地域コミュニティ及び地域経済の活性化に関連する取り組み。

03

#### 農林水産業の衰退

進行する人口減少と高齢化の中で、第一次産業の発展と地域コミュニティの活性化に関連する取り組み。





株式会社 さんりくみらい  
代表取締役

## 藤田 純一

所在地  
宮城県気仙沼市  
出身地  
宮城県気仙沼市



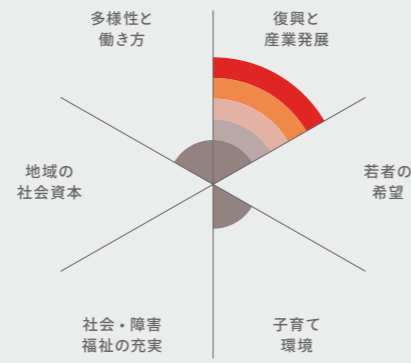
## 三陸の作り手と食卓を笑顔で結ぶ

株式会社 さんりくみらいは、EC サイト極上市場「三陸未来」の運営を中心に、リアルな販路開拓やプロモーションの実施。さらにパートナーとなる作り手（生産者、加工業者）を募り商品開発、技術開発を共に行的切磋琢磨できる環境を作ります。また、都市部の人たちとも積極的に交流し三陸や水産業に関する理解を深めることで、後継者を育成し水産業界を活性化させ三陸地域全体に貢献します。

### - 連携団体

- 気仙沼市内企業
- 気仙沼市役所
- 気仙沼漁業協同組合
- 地域外企業  
アイリスオーヤマ株式会社  
イオン株式会社  
など

17  
団体



### - わたしが大切にしているインパクト

自分たちが楽しみ  
今までの仕事とは異なる、  
新しい取組みの数

5  
事業

事業を通じて  
幸せにしている  
周りの人の数

約 300  
人

### - 年間予算

5500  
万円

### - 参画している仲間の数

	域内	域外
従業員	4	-
業務委託	4	-
アルバイト	10	-
プロボノ	-	5
ボランティア	-	-
		23 人

### ビジョンで結ばれた仲間と創業

私は気仙沼で漁師をしながら藤田商店という屋号で商売をしていましたが、10年前の震災によって全ての物がなくなりました。その後、ご縁のあった市役所の方々に勧められ「経営未来塾」に5期生として参加し、たまたま水産加工業と市場の仲買人という、同じ水産業でも立場の違う同期に出会いました。半年間いろんなことを学んでいく中で、私たちの根底にある「世の中の人たちに本当に美味しい魚を届けて笑顔にしたい」という想いに気がつくことができ、2017年、三陸未来を共同で設立しました。設立当初の課題意識は、廃棄される魚をうまく活用しつつ、鮮度の高い美味しい海のものをお客様に直接届けることでした。私は子どもの頃から両親について地曳網体験をしたり、海のもの食べて感動したりして育ったので、漁師が獲るものつくるものがどんなに人に喜ばれるかよく分かっていました。子どもたちの目の前で殻付きのウニをむいてスプーンを使わず指で食べさせると、キャーっとう歓声です。海を食べてる感じだ!」なんて言われるとすごく嬉しくて、そこに漁師としての面白さを感じていました。

### 「海を食べてる感じだ!」なんて言われるとすごく嬉しくて

しかし当時の流通は、気仙沼の市場から築地を介して、仲買人が何社も入り、飲食店やスーパーに流れたものがようやく個人のお客様に届くという形が一般的でした。新鮮な魚は本来もっと美味しいのに、この仕組みではどうしても時間のロスやマージンが生じてしまいます。また、生産者には誰がどのぐらいの金額で何を買って、どんなふうに使っているのかわかりません。

そこで私たちは、浜や市場、加工会社から直接お客様へ届ける仕組みを考えました。鮮度の劣化を防ぎマージンをカットしながら、食べる人たちの姿が見えることで生産者側の意識も変わり、「ただ獲って売ってお金をもらえたらいいや」という在り方から、想いを持った商人のような魅力的な生産者たちが増えていくと期待しています。

### 「獲る」漁業から、「育てる」漁業へ

震災前は、同じ水産業でもみんなライバルでした。いい漁場や道具を教えたりすると自分の獲る量が減ってしまうので。しかし、震災は、個社だけで立ち直れるレベルではなかった。助け合うしかなかったんです。チーム気仙沼やチーム三陸のような形で少しずつ横の連携が生まれ、経営未来塾など人材育成分野でもつながりが育まれるなかで、仲間という意識が自然に強くなっていきました。また、以前は「獲る」漁業が主でしたが、今はわかめの養殖など「育てる」漁業になってきています。近年、世界的に温暖化の影響が色濃く出ており、日本の海の資源も減ってきています。この先、漁師だけで食べていけるのかという不安を持つ人もいて、それならば、獲るだけでなく育てようという流れです。

まず、全国的に動き始めているのが陸上養殖です。例えば南九州では海苔が不漁なので、陸上の蓄養施設で海苔の栽培をしています。岩手やここ気仙沼では、サーモン系の蓄養に取り組んでいます。漁協でも、昆布やあらめなどの海藻類を養殖し、収穫しないで種として流通させる取り組みが行われています。以前と比べて何が大きく変わったかという、お互いにもっと良くなるという関係性になったことですね。たくさん育てるために、それぞれが他地域の漁師たちと積極的に情報共有しながら、種の制度や漁法、道具を工夫し合っています。

### 美味しいから広がるつながりが産業を支える

これからチャレンジしていきたいことの1つはウニの蓄養です。温暖化で海藻類が減少する「磯焼け」が起きており、餌が十分食べられなかった実入りの少ないウニが異常繁殖しています。そこで、ウニノミクスと

いうベンチャーと協業し、水温管理をした陸上蓄養施設で実入りの少ないウニを育てて流通に回す仕組みを作ろうとしています。餌も循環型で、昆布養殖で出た端材を使っています。

もう1つはやはり、本当に美味しいものをもっと普及させたいということに尽きます。今、魚離れがすごい進んでいて、なぜなのかと考えると、やはり本当に美味しいものを食べてないんですね。どの一次産業も少子高齢化の影響で新規参入者は少なく、漁師の数も減ってきています。私たちの浜も現役は60〜70代が多くて、あと10年もすれば引退される人たちがたくさん出てくるという状況です。美味しい魚をもっともっと若い人たちや子供たちに食べてもらえなければ、産業自体が継続していかない恐れがあります。一方で、消費者の方々の意識はどんどん高まってきていて、生産者の想いや価値観、どういところでどんなふうに使われているのかを評価して下さるお客様が増えてきています。今後はこうしたお客様たち、特に仙台や東京圏など都市部の方々と交流会を開催し、コアなファンづくりに力を入れていきたいです。こうした取り組みが全国的に活発になれば、生産者の意識の向上や水産業の持続にもつながると考えています。

### 『当たり前』への感謝が三陸の強みに

震災後、何もかも失って先が見えない中、全国から支援を受け、人の温かさや日常のありがたみを感じながら過ごしてきました。だから今はいくら仕事が忙しくても、仕事ができてお客さまから注文をいただける環境が本当に幸せで、疲れもないしメンタルがいい状態でここまで歩むことができました。

### どうやったら地域を盛り上げられるか、従業員やお客さまたちを笑顔にできるか

三陸の事業者さんたちみんなが、どうやったら地域を盛り上げられるか、従業員やお客様たちを笑顔にできるかを率先して考えている。それが今、私たちの地域の強みになっているのかなと思っています。



NPO 法人セラミカ工房  
代表理事

## 阿部 鳴美

所在地  
宮城県 女川町  
出身地  
宮城県 女川町



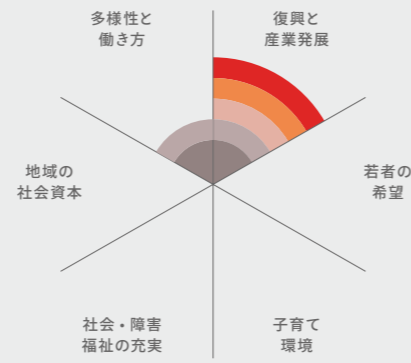
## 色を失くしてた街に スペインタイルで彩りを添えたい

素焼き生地に下絵を描き、色をつけ、1000度近い窯で焼くスペインタイル。カラフルな色づかいの美しさと、何枚もつなげて飾るのが魅力です。震災直後の女川町はタイルで言うと素焼きの状態。色を失くしてしまった街にスペインタイルで彩りを添えたい。大きな夢に向かって、2012年に工房をオープンしました。作り手のほとんどは地元女川で暮らす女性です。設立当初からのメンバーは、これまでに2,000枚以上の制作を経験しています。

### - 連携団体

- UR
- 女川町生涯学習課
- 女川町観光協会

100  
人



### - わたしが大切にしているインパクト

メモリアルタイルを街に残して下さる設置して下さるお客さま

約 2000  
人

スペインタイルを目にして下さった数  
(実際に来店)

約 180,000  
人

### - 年間予算

1800  
万円

### - 参画している仲間の数

	域内	域外
従業員	18	9
業務委託	15	7
アルバイト	30	20
プロボノ	20	300
ボランティア	20	100

539  
人

## “色がなくなった街”に スペインタイルで彩りを

私はもともと女川町の出身で、女川を出たのは大学の4年間だけ。結婚も同じ町内の方としたので、この町に暮らしてもう61年が経ちます。子育てをしながら趣味で始めた陶芸のサークルをつくり、メンバーと一緒にものづくりを楽しむ生活を送っていましたが、震災で自宅も陶芸サークルの活動場所もなくしてしまいました。女川は建物の8割がなくなるほどの大きな被害を受けたので、瓦礫が片付いた後は本当に真っ茶色の色のない世界でした。

自分の暮らしが少し落ち着いてきたところに、何とかもう一度みんなが楽しむための陶芸の場所をつくりたいという気持ちが強くなりました。そんな折に、知人に紹介されたのがスペインタイルです。

ちょうど震災から1年後の2012年3月11日、実際にスペインを訪れる機会をいただきました。そこでは街中が伝統的で色鮮やかなタイルで溢れており、その風景にすぐ癒され元気ももらったんです。街の博物館で何百年も前に作られたタイルを目にしたとき、時代を越えて作り手とつながれたような感覚になり、このタイルには街を彩るだけではなく私たちの想いを未来の人に伝える力があると確信しました。

## スペインタイルを通して世界中の人たちに感謝の気持ちを伝え、後世に残るものを作りたい

復興のまちづくりは被災した地域それぞれ違った形で進んでいきますが、スペインで大きく心を動かされたことがきっかけで、明るくて元気の出る女川らしい復興に貢献したいと考えるようになりました。女川が新しく生まれ変わるときにスペインタイルで街

を彩り、スペインタイルを通して世界中の人たちに感謝の気持ちを伝え、後世に残るものを作りたいという想いのもとNPOを立ち上げたのが、2013年4月です。

## 街を飾るタイルには 女川の懐かしいモチーフを採用

始めに考えたのは、スペインタイルという異文化にふれたことがない女川町の方々に、少しでもタイルのことを知ってもらい、手に取って「これいいね」と思ってもらいたいということでした。そこで、私たちがビジネスコンペでいただいた賞金200万円を活用して、町民の方が自宅を再建するときにスペインタイルの表札を飾っていただく取り組みからスタートしました。自宅に表札を飾るのは、震災からの復興の象徴でもあります。表札制作費の一部を助成する形で、これまで約150枚のスペインタイル表札が生まれています。

復興住宅にも私たちが作ったタイルが採用され、絵柄として女川の懐かしい風景を描きました。海上獅子舞、サンマの群れ、中学校の坂道を歩く制服姿の女の子など、馴染みのあるモチーフで作ったタイルを町民の皆さんの目につくところに設置し、親んでもらおうというのがねらいです。

他にも体験会の開催など、町民の方に知ってもらおうと力を注いでいるうちに、私たちの想いに共感して下さったマスコミの方たちが情報を発信して下さるようになりました。すると、取り組みについて何も知らなかったという町の人にも、メディアを見た町外のご親戚やご友人の方が「女川でこんなことやっているんだってね」と共有して下さるような形で情報が届き、いい循環ができていきましたね。

現在は、メモリアルワークショップがメインの事業になっています。こちらは、視察や学習旅行などさまざまな形で女川を訪ねて下さった方々にタイルを作っていただき、1枚は思い出としてお手元に、もう1枚は街に飾られ、一緒に女川を彩るような活動です。

## 町内外の人たちが交流しながらものづくりを楽しめる空間をつくりたい

復興から10年以上の時が経ち、新しくタイルを貼るような施設というのはほとんど完成しています。仮設にいたころはいろ

いろと支援があり、外からの楽しみもたくさん入ってきていました。現在はそういった支援が少なくなってきたためか、たまに教室を開催するとすごく人気で、本当に喜んでいただけるんです。そうしたことから、今後は女川の町の人と町外からいらした方が、一緒にお茶をしたり会話をしたりしながら、自由にものづくりを楽しめる場をつくりたいと思っています。特に陶芸は、女川に多いお年寄りの方々も手を動かしたり、自分の作品を日常的に使ったりして楽しんでいただけるのが魅力です。

また、これまで作り手やスタッフとして関わってきた人たちは地元の女性が多いので、地域の女性が働く場や新しい産業としても定着させていきたいと考えています。

## 今、女川で楽しく暮らせているのは たくさんのご縁のおかげ

今回のレポート作成を機に、改めてこれまでの数字を掘り起こしてみても大変驚きました。スペインタイルという文化を知っていただき、女川の魅力として発信していかうと活動してきましたが、お客さまの数や収益・支出といった数字は、本当にたくさんの方々に関わり合いの中で生まれています。こうしたご縁の上に成り立つ積み重ねこそが、私たちにとって大きな財産だと思っています。

## ご縁の上に成り立つ 積み重ねこそが、 私たちにとって 大きな財産

私たちが特に嬉しくて、同時に大切にしたいと感じている指標が『メモリアルタイルを町に残して下さるお客さまの数』です。震災がきっかけではありませんが、女川にいらして下さる全国、世界中の方たちとふれあいを通じて、それまで経験したことのないような刺激をたくさんいただきました。陶芸やスペインタイルは自分が好きだから始めたことで、好きだから続けてきたことですが、自分の実力だけではきっとここまでこれませんでした。見えない力に背中を押され、本当に多くの方々のおかげで、今、女川で楽しく暮らしています。



NPO 法人 アスヘノキボウ  
代表理事

## 小松 洋介

所在地  
宮城県 女川町  
出身地  
宮城県 仙台市



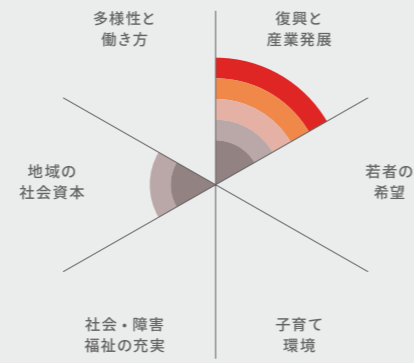
## 女川町の社会課題解決を通じて 日本・世界の社会課題解決に貢献する

アスヘノキボウは、女川町の社会課題解決を通じて、日本・世界の社会課題解決に貢献することをミッションとする団体です。日本全体で人口が減少し、経済が縮小する社会で、私たちが直面する社会問題もより深刻化し複雑になっています。日本の地方はそれらの課題を先取りしている社会課題先進地です。私たちはその課題を異なるセクター（企業・団体）と連携することで、Collective Impact を生み出し、新しい地域のあり方を実現することで、日本・世界の未来に貢献します。

### - 連携団体

- ロート製薬
- NPO 法人クロスフィールズ
- Impact Japan
- 女川町
- 女川町商工会
- 女川みらい創造株式会社
- 日本政策金融公庫
- IGPI
- POOL.inc
- The breakthrough company GO
- 公益社団法人経済同友会 など

**15**  
団体



### - わたしが大切にしているインパクト



### - 年間予算



### - 参画している仲間の数

	域内	域外
従業員	-	3
業務委託	10	10
アルバイト	10	8
プロボノ	20	30
ボランティア	-	10
		<b>101</b> 人

震災から4年ほど経ち、町の瓦礫が大分片付いた2015年ころようやく、町の未来についての話が始まりました。当時議論していたことは、例えば、どこに商店街をつくったら良いか、商店街の配置としてどこに金融機関を置いたら消費の流れが起きるかといった都市計画のハード面と、今後人口減少がより著しくなっていく女川にどういう政策や社会保障制度があったらいいのかといったソフト面です。女川は全国人口減少率が一位だったので、そこで議論されていた課題は実は女川に限ったことではなく、日本が将来国として抱える課題、さらに言えば先進国でも同じように抱えるであろう課題ばかりでした。だからこそ僕らは、世界の他の国や地域につながるような事業をやらなければいけない、復興支援の恩返しとして「女川の社会課題解決から日本、そして世界の社会をより良くする」ということをミッションに掲げました。

### 事業の中心は活動人口の創出

## 地域に住んでいるか 否かに関係なく、 町で活動してくれる人 たちを増やす

現在は女川町や地元の方々とはしっかりタッグを組んで、特に、地域に住んでいるか否かに関係なく、町で活動してくれる人々を増やすという活動人口創出に力を入れています。具体的な事業としては、女川町からの受託事業と自社事業の2つがあります。町から受託している事業の1つが、5日～30日間女川に無料で宿泊できる「お試し移住」というプログラムです。女川には人手が足りないお店が結構あるので、ちょっと来て手伝ってほしいというお店や地域のニーズと、地域に関わりたいたいという熱量の高い人々とのマッチングを、丁寧なコミュニケーションのもとサポートしています。このプログラムを通じて、年間150人くらいが平均で2週間女川に滞在しています。人口6000人の町にとってのインパクトはかなりの大きさ、町の方々からも高く評価をいただいています。もう1つは「創業本気プログラム」という、地方で起業する人達を支援するサービスです。これには女川町の行政予算がつかわれ

ていますが、女川で起業準備をして他の町で起業をしたとしてもご縁は続くという考えのもと、女川の住民だけではなく、どなたでも参加してくださいという形で行っています。

### 地域の困りごとをデータから読み解き 女川から世界をより良くする

## 女川だけの課題なのか、 女川から日本や世界を より良くできる課題なのか をしっかりと議論する

僕たちが事業を考えるときには、僕らのミッションに沿ってそれが女川だけの課題なのか、女川から日本や世界をより良くできる課題なのかをしっかりと議論することを大事にしています。また、鮮度の良いデータをしっかりと取りに行くことも大切にしています。社会課題は肌感覚が重要だと思っています。だからこそ地域とのコミュニケーションを丁寧にする必要があると思います。地域の人と話をすることで「いやあ、こういうこと困っててさ」といった声を耳にしたら、それはみんな困ってるのか、何年くらい困ってるのかということを活用して社会規模で測るようにしています。国や県が公開しているデータは数年に1回の調査をベースとしたものが多く少し古いので、女川町のデータは必ずチェックしています。

データから課題が見えてきたら、必要な人々と議論を重ねて、事業で解決できるか、しっかりと継続していけるかを見極める、そういう「深い思考」をメンバーには求めています。

これから5年、10年かけてさらに力を入れていきたいと思っていることとして、すでに3年前から取り組み始めている Venture for Japan という事業があります。地域には優良な企業がたくさんありますが、地方にあり知名度が低いということで、優秀な人材がなかなか確保できないことが課題です。そういった企業に対して優秀な新卒学生を2年間限定で紹介し、経営や重要な職務に就いて責任を持って仕事をもらい、両者がwin-winになるような事業です。これが全国に広がっていくことで、女川から世界を変えたいと思っています。



一般社団法人 はまのね  
代表理事

## 亀山 貴一

所在地  
宮城県 石巻市  
出身地  
宮城県 石巻市 蛤浜



## 豊かな浜の暮らしを 未来へつなぐ

3世帯7人。宮城県の東の先端、石巻市牡鹿半島にある蛤浜は小さな漁村でカフェ「はまぐり堂」を営みながら、持続可能な浜づくりに取り組む。

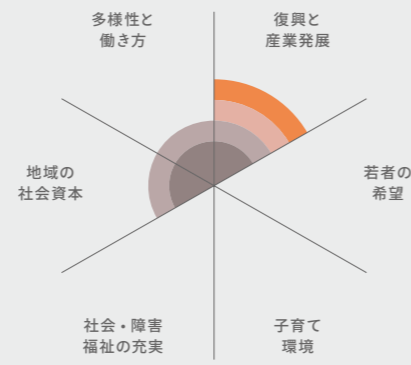
地域課題の事業化に関心をもち関わる多様な人たちが自律して浜に関わる環境を整え、人と自然環境と経済の最適な循環を通じて経済成長至上主義を超えた安心・豊かでサステナブルな経済に地域内外の人たちが携われるモデルを作っている。



### - 連携団体

- (株) 巻組  
(地域おこし協力隊研修、ワーケーション)
- シカラボ  
(獣害対策、狩猟担い手)
- active life labo  
(スタケーション、マリンアクティビティ)  
など

13  
団体



### - わたしが大切にしているインパクト

働いているメンバーの幸福度(自律していく人たち) wellbeing

8  
人

算盤とアートのバランスを  
追求できる関係事業

1  
事業

### - 年間予算

2000  
万円

### - 参画している仲間の数

	域内	域外
従業員	5	8
業務委託	10	3
アルバイト	8	-
プロボノ	-	10
ボランティア	100	1000

1144  
人

### 住民からの反発を機に、 地域の幸せを考えた在り方へと シフトチェンジ

一般社団法人はまのねは「豊かな浜の暮らしを未来へ繋ぐ」をビジョンに、石巻の牡鹿半島にある超限界集落の蛤浜を中心に活動しています。私は蛤浜で生まれ育ち水産高校で教員をしていたのですが、震災で壊滅した集落を何とか残していきたいという一心で始めました。

一緒にやる仲間もノウハウもない中、勢いに任せてのスタートだったので、銀行からの融資も申請した助成金や補助金も全てだめでした。仕方なく、自分が持っていた築100年の古民家を改装してはまぐり堂というカフェを始めました。いい仲間とたくさんの方のご協力のおかげで、オープンから2年目には18,000人ものお客さんに来ていただきました。メディアにも取り上げられ、県の復興支援助成金を3年間いただけることとなり、そのタイミングで法人化をしています。

ですが、すぐに壁にぶち当たりました。瓦礫だらけになってしまったこの集落にたくさん人を呼びこもうと気合を入れて頑張ったら、人が来過ぎてしまったんです。非常にありがたい話でもあるのですが、集落が観光地化し、住民の暮らしに迷惑をかけてしまいました。5人くらいしか住んでいない小さな集落にバスが乗り付けて、6,70人がワーッと来るというのは、住民からしたら異常な光景ですね。合意形成をうまく取れなかった自分の甘さでもありましたが、支援してもらえるのは長くて5年、それまでにやれるだけのことをしなければと焦っていたのが正直なところです。

それまでは雇用や交流人口を増やそうと「外のものさし」でやっていましたが、住民の方からの反発を受け、やはり住民の幸せをちゃんと考えるべきだと感じて事業を大

きく方向転換させていきました。反発を受けたといっても実は2,3人ですが、お金と時間をかけて準備していた宿泊業やキャンプ場の計画は全てとりやめ、6人体制で運営していたカフェも完全予約制の2人体制に切り替えました。

当時ここに来てくれていたHBSの学生たちからは、「たった2,3人の反対で事業プランを変更するなんて!」というショックな声も上がりました。でもそのときに私は「いえ、その2,3人がすごく大事なんです」と話していました。後に理論立てて整理できるようになったのですが、焦りから財務を優先させて住民の反対を振り切って走ってしまうと、結果的に社会関係資本が損なわれて、経営が持続的にならないということを直感的に理解していたのだと思います。コロナ禍もあいまってお客さんの数も落ち着き、ようやく今、住民との共存が図られてきたように感じています。

ようやく今、  
住民との共存が  
図られてきたように  
感じています。

### 「コモン化」によって 人と自然環境と経済の 健全な循環をつくる

ここは自然環境と本当に密に暮らしている地域なので、お金になるからといって漁業で乱獲すれば資源がなくなりますし、逆にお金にならないからと山が放置されれば荒れてしまいます。人が少なくなっていく中で、地域の資源や課題を継続的なビジネスにして、人と自然環境とお金のバランスを成立させていくことがひとつの課題だと考えています。

よく地域には何も無いといいますが、みんな当たり前の価値に気づいてないだけなんです。例えば古民家にも価値があります。その空間を生かしたカフェで、需要と供給が合わないため捨てられてしまう地元の魚をちゃんと美味しく料理してお出しする。あるいは荒れている山の木を自分達で切って、オーダー家具などを作ること、さらに価値を高めることもできます。

一昨年、クラウドファンディングなどを活用して小さな鹿の解体場を建てたので

が、この地域では20年前から鹿が爆発的に増えて、畑が荒らされたり車とぶつかったりという被害に困っていました。頼みの猟友会も皆さん高齢化していて担い手も少ないので、それを解決しようとジビエカレーや革製品づくりをはじめ、自分たちも狩猟に挑戦して、他の人にも狩猟を始めるきっかけづくりをしているうちに、若い人がどんどん狩猟免許を取ってくれたんです。これも普通にビジネスとして成立させようとするのが難しいのですが、今は7人の若手猟師がそれぞれ個人事業主として共同で運営しています。

近年では「コモン化」がキーワードになっていますが、1つの企業でビジネスするのは結構脆い。みんなにオープンにして個に委ねつつ、組合的なものをつくって里山をコモン化することにより持続的に整備できないかなど考えています。

### 先人たちから学んだ 知恵を伝えたい

コロナ禍でカフェを一時休業していたころに漁業の手伝いに行きました。皆さん70代ですが本当にお元気で、経済が止まっても自分で魚を獲り、みんなで助け合い、普通に生きてるんですね。お互いにGIVEの関係で、暮らしそのものがクリエイティブで、これからの時代においてすごく大事なことだなと思いました。何より、自分でとったものを自分で料理して食べたり、それをあげて喜ばれたりという体験は自己重要感に満ちた豊かなものでした。

「何が人類にとって  
大切なのか」  
という問いのヒントは  
東北にある

利益追求していくと、誰でもできるようにシステム化して自分が生きてる感じがしませんが、このまま経済の波に飲み込まれて、大量生産・大量消費の世の中が変わらなければ自然環境も限界を迎えます。一番壮大に考えれば、「人が生きるために何が大切なのか」という問いのヒントは東北にあるのではないのでしょうか。そういう知恵を持った人たちがこそが宝で、先人から学んだ我々世代がどんなふうにも現代で生かしていくかを、これから伝えていきたいですね。





**MARUMORI-SAUNA 株式会社**  
代表取締役

## 本多 智訓

所在地  
宮城県 伊具郡丸森町  
出身地  
千葉県 柏市



※ 丸森町の仲間達と共同経営を行っている

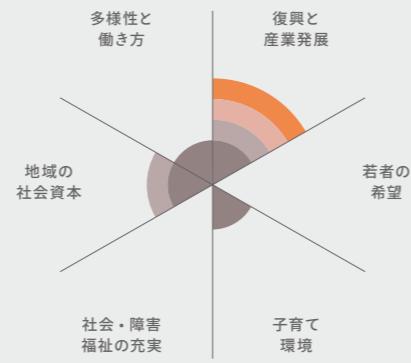
## 自然の中で五感が解放される時間を

MARUMORI-SAUNA は、宮城県丸森町の豊かな自然の中で完全貸切・自分だけのプライベートサウナ体験をご提供しています。本当の意味での地方創生を実現するためには、地域に住む私たち一人一人が誰かに与えられるのを待つのではなく、「この地域を自分でどうにかするぞ」と自分たちの頭で考え、自分たちの手で活動していくことが最初のステップとして必要だと考えて東北の資源である自然を「価値」に転換できるフィンランドサウナを展開しています。

### - 連携団体

- 有限会社今野建業
- 株式会社伊具緑化
- カフェペルシッカ
- 町内の大学生 2 名  
(清掃メンテナンス業務の依頼)

**18**  
団体



### - わたしが大切にしているインパクト

丸森町に循環させた金額 (初期投資 / 人件費 / 連携事業者からの購入費等)

**1377**  
万円

仲間内法人での  
新規事業立ち上げ数

**3**  
事業

### - 年間予算

**250**  
万円

### - 参画している仲間の数

	域内	域外
従業員	7	-
業務委託	7	-
アルバイト	5	5
プロボノ	-	5
ボランティア	30	30

**89**  
人

### 今、東北に必要なのは 支援者ではなくプレイヤーだ

私はもともと前職で丸森町から委託を受け、ビジネススクールのような形でマーケティングやファイナンスなどを通じて起業家支援をしておりました。私の個人的なミッションは「東北を盛り上げる」ことだったのですが、実際にはあまり手応えがなく、役立っている実感が持てませんでした。起業家を支援するだけではこの東北はよくならない。支援者やサポーターよりも、今、東北が一番必要としているのはプレイヤーだということを感じていたので、それならば自分でやってみようと思いました。地域の人を巻き込みながら一緒に新しいチャレンジをすることで、そういった前向きな雰囲気や感覚が伝わっていくし、それが本当の意味での創業支援になるだろうと考えたのが起業したきっかけです。

あるときたまたま糸井重里さんのウェブサイトで、1枚の写真を見つけました。サウナトレーラーを気仙沼の海まで引っ張ってきて、海にダイブしている写真です。それまで私はサウナに入ったことがほとんどなかったのですが、その写真に強く魅了されました。自然の中でリラックスすることこそ私がずっと提供したいと思っていた価値だなど感じて、それならばサウナをやってみようかなと思い、2017年6月に町の仲間3人とともにサウナの本場であるフィンランドを訪れました。

フィンランドでは実際にサウナに入り、

川の中に飛び込む体験をし、その素晴らしさを実感しまして、帰国後さっそくこの町にあるいくつかの川沿いをリサーチし始めました。2017年11月に会社を立ち上げ、条件を勘案しながらキャンプ場の一部の土地を町から借りることに決めて、具体的な交渉を重ね、2018年6月ごろに着工しました。

### 「なんとも言えない空気感」を 壊して仲間を広げていきたい

私たちのビジョンはずっと変わらず、「私たちがきっかけとなり、丸森サウナを通じてネットワークコミュニケーションを提供して、一人ひとりの想いが燃え続ける新しい東北をつくる」ことです。ただのアウトドアではなく、自然の中で共に豊かに暮らす価値を世に示し、同時に自然産業を創造していきたいと思っています。

### 自然の中で共に豊かに 暮らす価値を世に示し、 同時に自然産業を 創造していきたい

現在、町から指定管理を受け、サウナとキャンプ場を共同企業体 (JV) という形で運営しており、丸森サウナとしては企画などの戦略的な部分を担っています。サウナを運営するという観点では十分に安定してきたと思いますが、サウナはあくまでひとつの手段にすぎません。自然産業として地域でしっかりと稼ぐ仕組みに進化させていくためには、地域の人たちに協力してもらいながら、地域を動かしていく必要があります。

一方で、地方にはポテンシャルはたくさんあるのに、先にできない理由を並べてしまったり、やり方が分からずに悶々としてしまったりするような「なんとも言えない空気感」があります。そういう空気を壊し、地域の意識改革をして、一緒に動いてくれる仲間をちょっとずつ広げていきたいと考えています。

最近では、周辺市町村や地域内の方々からお問い合わせをいただくことも多くなってきました。たとえば町内の地域おこし協力隊の人から、サウナやキャンプ場を使ったイベントやサウナ関連商品の開発のお話がありました。地域の人たちが「丸森サウナと一緒に何かやりたい」と思ってくれて、お声がけもいただけるようになってきて、周

りの方々からの理解も深まってきたかなという段階にあります。私たちとしても、地域おこし協力隊の方と連携しながら、丸森や宮城県南地域の食の魅力の発掘・発信をやっていきたいと思っています。

### 狭い地域だからこそ、 企業の協働によって 経営の質と効率性を高めたい

### 総務や採用、社員教育や 福利厚生など、複数の企業間 で共通化・効率化できる 部分があるはず。

狭い地域だからこそ、小さな会社同士で共同事業体のようなパートナーシップを組み、中小企業の質を向上させることにも取り組んでいきたいです。総務や採用、社員教育や福利厚生など、複数の企業間で共通化・効率化できる部分があるはず。たとえば鎌倉では、企業・団体が一緒に「まちの社員食堂」を開いて、鎌倉で働く人たちに地元のメニューを提供しています。そういう社食を丸森町でもつくりたいですね。

また、小さな会社ですとどうしても、あらゆる決断がトップ1人の肩にのしかかってしまうことが多いんです。そうした課題に関しても、バーチャルの取締役会の開催など、共同体として同じ目線で悩みも共有しつつ一緒にできることを広げていくような形で、意思決定の質も高めながら地域全体の稼ぐ力を向上させたいと思っています。

今後は「東北ネイチャーサウナ」のようなブランドをつくり、点ではなく面として、東北の自然の奥深い魅力を発信していきたいです。具体的には2~3泊の東北ネイチャーサウナツアーのような形で、東北のいくつかのサウナを回っていくルートの開発などを計画しています。既に東北の2つの地域からお声がけをいただいております。準備を進めているところです。ただサウナをつくるだけではなく、サウナをツールとして、その地域の魅力を掘り出すことが大切だということをしっかり伝えながら、1年に3カ所ずつくらい増えていけばいいと思っています。

東北の各地で「サウナを拠点に地域の中でいろいろなものが生まれ始めた」という地域づくりのモデルを、この丸森サウナ発でつくっていききたいです。



一般社団法人東北風土マラソン&フェスティバル  
発起人代表

## 竹川 隆司

所在地  
宮城県 登米市  
出身地  
神奈川県 横須賀市



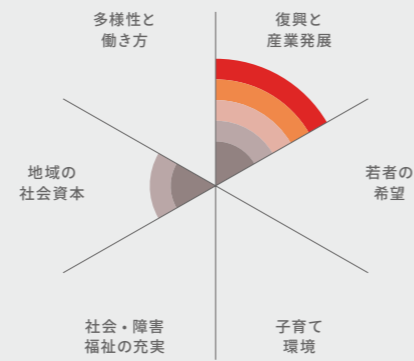
## ランナーも、ランナーじゃなくても 楽しいお祭りマラソン

「東北風土マラソン」は、毎年春に宮城県登米市で開催されるファンラン大会です。春の東北の田園風景の中を、東北各地の名物グルメを食べ、日本酒の仕込み水を飲みながら、走る楽しみを存分に味わう。フランス・メドックマラソンの企画協力を得て、東北の食材と日本酒を世界中に向けて発信する「グローバル・ファンラン」を目指しています。東北の魅力をたっぷり味わえ、ランナーも、子どもたちも、ボランティアも、観光客も、そして地元の人たちも、みんなで楽しめるお祭りイベントです。

### - 連携団体

- 登米市 (共催)
- 南三陸町 (共催)
- 宮城県 (後援)
- など

**950**  
団体



### - わたしが大切にしているインパクト

経済波及効果 (大会期間中の支出についてアンケート結果等から毎年推計)

**1.6**  
億円

県外参加ランナー数 (関係人口増加の指標としてエントリーデータより累計)

約 **15000**  
人

### - 年間予算

**6000**  
万円

### - 参画している仲間の数

	域内	域外
従業員	-	-
業務委託	-	70
アルバイト	-	-
プロボノ	50	-
ボランティア	4000	-

**4120**  
人

### ニューヨークでの起業を辞め 日本人の一人として被災地支援を決意

私はもともと野村證券に在籍しており、30歳で起業して、2011年4月にはニューヨークに会社をつくることを決めていました。準備のためアメリカと日本を行き来する生活を送っていたのですが、ちょうど日本へ出張に来ていたときに東日本大震災を経験しました。スケジュールの関係で、すぐ後ろめたい気持ちを抱きながら、震災の4日後にはアメリカに戻りました。アメリカでは、タクシードライバーやホテルのフロントなどたくさんの方から「日本は大丈夫か」と心配されました。私の実家は横須賀ですが、地元が否かに関わらず、「日本人の一人として何かしなきゃいけない」と強く思ったことがスタートです。

はじめに、仲間5人とハーバードビジネススクールのコミュニティに声をかけて、数千万円の寄付を集めました。ただ、寄付活動を通じて、「震災直後の支援」と「継続的に回復するための支援」はまったく違うことを再認識し、実際に地元の人々が喜ぶような支援をしたいという想いが湧きました。

震災の直後に災害復興ボランティアに行けた人はごくわずか、海外にいる友人はもちろん、国内でも東北外の友人たちも「何かしたいけどどうしよう」という人たちがばかりでした。そういう想いを東北へとつなげられるような方法はないかなと模索して、考え至ったのが『東北風土マラソン&フェスティバル』です。

単なるマラソンに留まらない  
“文化”をつくり  
地域に笑顔の連鎖をつくる

私たちはこのマラソンを「ランナーもランナーじゃなくても楽しいお祭りマラソン」と位置づけており、マラソン大会のみならず、同時に開催する食と日本酒のフェスに集客することが重要でした。そこで、フランスのボルドー近郊メドックで開催されているメドック・マラソンのようなカルチャーをモデルにしようと考えました。別名「ワインマラソン」とも呼ばれるこの大会は、収穫間近のぶどう畑の間を縫うように設定されたコースを、テーマに沿って仮装したランナーが走り、エイドポイントではワインが楽しめるというユニークな大会です。世界中から毎年8,000人くらいがランナーとして参加しますが、来場者数は2万4000人を超えるため、ランナーが友達や家族を2、3人連れて来ている計算になります。

2012年9月、実際にメドック・マラソンに参加し、その後2014年4月にメドック東北版として、東北風土マラソン&フェスティバルの第1回大会を開催しました。形づくの上では、復興支援やマラソンという文脈以上に、登米市における“文化”を醸成することを意識しています。これまでにオンライン開催も含めて7回実施しており、直近の大会では約7,000名のランナーに参加いただいています。パートナー企業も100社ほどかかわっていただいているので、ボランティアや演者を含めると1,200名ほどが動いています。

地元の人が元気になり  
次のステップに進もう  
という気にならないと、  
本当の復興や成長には  
つながらない

私たちが考える本質的なゴールは「第一次産業と第三次産業の復興および成長」です。そこで重要なのは、主体となる人、つまりハードの使い手たちだと思っています。だからこそ私たちが実現したかったことは「地域に笑顔の連鎖をつくる」というソフトの部分です。いくらハードがそろっても、地元の人が元気になり次のステップに進もうという気にならないと、本当の復興や成長にはつながらないと思っています。地域づくりという観点から考えても、マラソン大会のランナー数が伸びることより、地元の人たちの手でこのイベントを継続的に回せるようにしていくことが大切ですね。

### 理想形は東北の地域産品が グローバルブランドになること

こうした考えのもと、立ち上げ当初から震災の10年後を見据えて、私たちが見ていなくてもマラソンを開催できるようにしていくことが大事だと思い、最初の5年は「立ち上げと成長」、次の5年は「定着と地元化」と位置づけていました。

最初の立ち上げ時は馬力や勢いも必要なので、医療スタッフも含め東京中心に東北の外から人を連れてきていました。元々はそんな東京のメンバーが半数以上を占めていた実行委員の構成も、6年目を迎えるにあたり一気に真逆に変えました。そうすると、地元発のアイデアも生まれ、実際に大会にも反映されると、少なくともコロナ前までは良い形で少しずつ「定着と地元化」が進んでいたように思えました。

東北風土マラソン&フェスティバルの分かりやすい理想形は、メドックワインのように、東北や登米市の地域産品がグローバルブランドになっていることです。おかげさまで、毎年のKPIとしている参加者の満足度や経済波及効果は達成できていますが、私たちがめざすレベルにはまだ至れていません。そもそも時間がかかること、自分たちだけではできないことを目標にしているとも言えますが、10年後でも30年後でもいいし、直接私たちがやらなくてもいいので、世界レベルまで行きたいですね。そうして、大会のミッションである「マラソンを通して東北と世界をつなげる」に繋げていきたいと思っています。

私たちにできるのは、成功するまで辛抱強くチャレンジを続ける、意志と行動力を持った地元の人たちを支援することだと思っています。私1人ではこれまでの経験もできることも限られてしまいますので、仲間たちのスキルや経験も借りつつ、意志ある地元の人たちが指標にできるような社会的インパクトをしっかりと示すことで、彼・彼女らと伴走していくことかなと思っています。

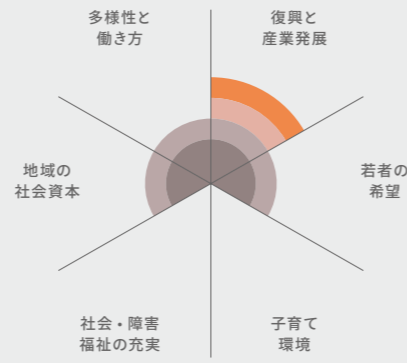
意志ある  
地元の人たちが  
指標にできるような  
社会的インパクトを  
しっかりと示す



sannoh yell(個人事業主)  
サンノヘール(任意団体)  
代表

## 五十嵐 淳

所在地  
青森県 三戸町  
出身地  
秋田県 秋田市



### 地域価値創造チャレンジャーが 生きる世をつくる。

「地域で挑戦したい人があたりまえに挑戦できる世の中」をVISIONに掲げ、自分自身や地域の人と共に挑戦したプロジェクトの結果と過程を共有し、次世代の新たな夢の種を増やす地域課題解決型人材育成に取り組んでいます。  
この活動が地域で挑戦したい人が第一歩を踏み出しやすい環境、その地域に住む人々が応援したいと思える土壌づくりに繋がり、ゆくゆくは地域文化の可視化や新しい意味付け機会となり、結果的に地域課題解決の基盤になると考えています。

#### - わたしが大切にしているインパクト

地域プレイヤー発掘数

30  
人

自身に関わるプロジェクト数

21  
プロジェクト

#### - 連携団体

- 青森県三戸町
- 青森県
- 青森県教育委員会
- 青森県立三戸高等学校
- 一般社団法人
- IMPACT Foundation Japan
- 丸末農業生産 株式会社
- 株式会社 SANNOWA
- 株式会社いーと BOX
- 株式会社中里青果
- 株式会社ファストコム
- 株式会社ニッポン手仕事図鑑
- など

50  
団体

#### - 年間予算

165  
万円

#### - 参画している仲間の数

	域内	域外
従業員	1	-
業務委託	5	3
アルバイト	-	-
プロボノ	10	5
ボランティア	8	-

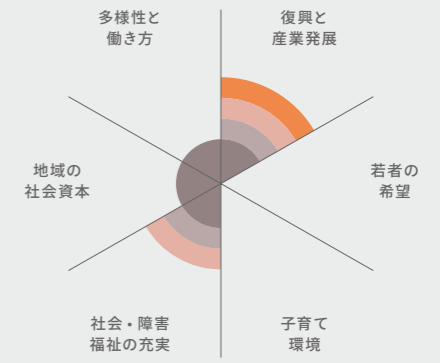
32  
人



農業法人 つながるファーム  
代表取締役

## 丹治 智幸

所在地  
福島県 福島市  
出身地  
福島県 福島市



### みんなが参加できる 「ふるさとを守る」農業スタイルを創る。

私たちは、長ネギの大規模生産販売(令和3年現在東京ドーム2個分の10ha)、長ネギ苗の販売、障がい者雇用と農業者独立研修を行なっています。株式会社つながるファームの「つながる」には、地域の人と人をつなぎ、地域の今と未来をつなぐという想いを込めて今の社名があります。当社では、様々な人同士が協力し合っ、より大規模に農作業を進めていき、地域復興も視野に入れて日々努めております。今後も、様々なものをつなげられる会社として精進してまいります。

#### - わたしが大切にしているインパクト

耕作放棄地を貸し出す人たちが増える

60  
人

独立する人たちが増える(農業を通じて生計を立てられる)

2  
人



#### - 連携団体

- トキタ種苗(株)
- 福島県農業振興公社
- 福島県県北農林事務所
- 福島市農業委員会
- 二本松市農業委員会
- (株)ファームランドヤマロク
- (株)荒川産業
- (株)平和物産
- (有)たねのオーエス
- (株)クロノス
- 就労継続支援B型事業所アールプラスワークむすびや
- 就労継続支援B型 笹森の郷
- など

60  
団体

#### - 年間予算

3000  
万円

#### - 参画している仲間の数

	域内	域外
従業員	-	-
業務委託	11	-
アルバイト	-	-
プロボノ	6	-
ボランティア	-	-

17  
人

### 3. Social Entrepreneurs

解決を目指す東北の社会課題

## 若者の希望

B

04

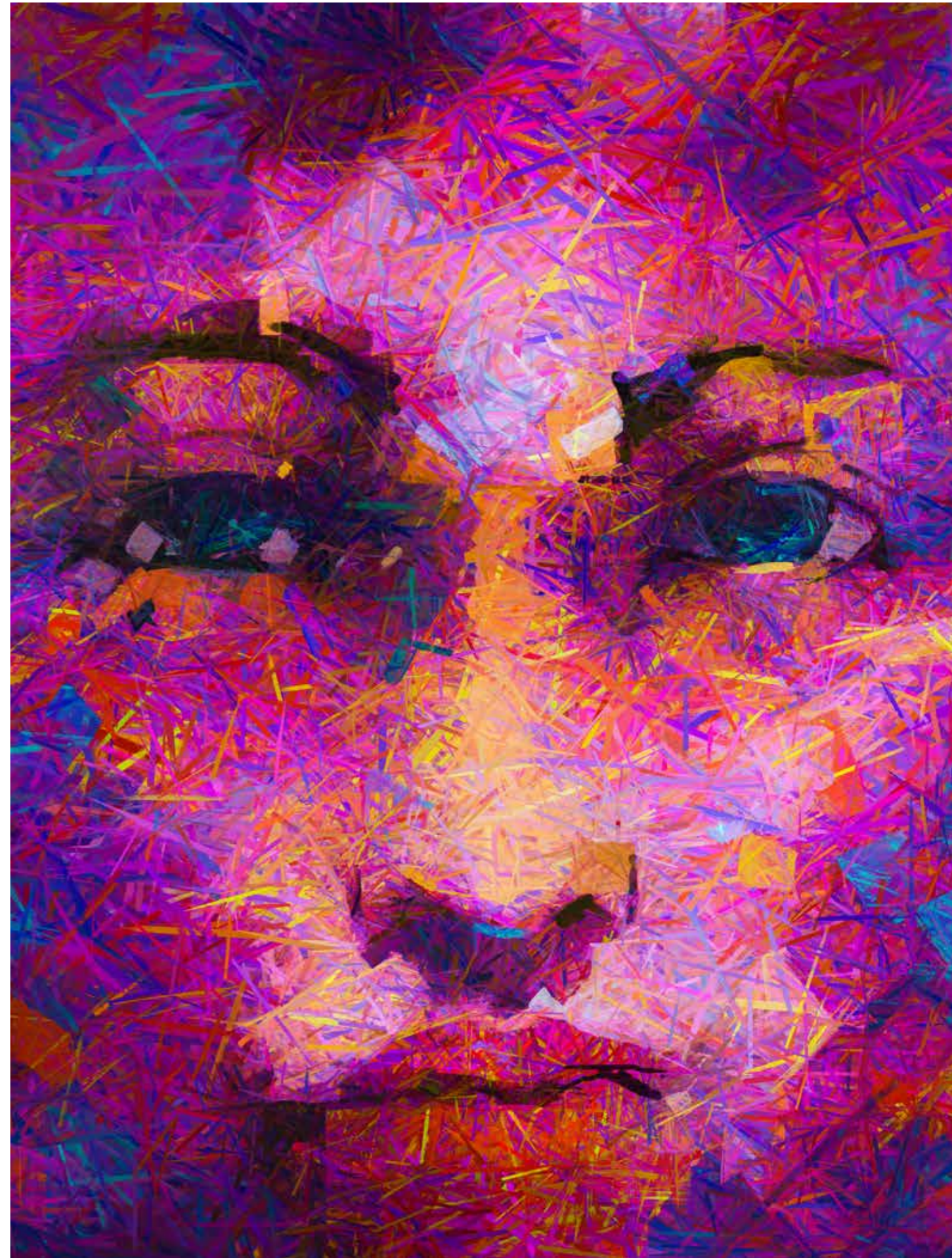
#### 不登校・いじめ

学校におけるいじめや暴力行為等がきっかけで不登校や学びの機会を奪われてしまう課題の解決に関連する取り組み。

05

#### 若者の将来に対する希望・肯定感の不足

若者が自身のアイデンティティを見出し、将来に対して希望を持ち自分自身の生き方と人生選択を支える取り組み。

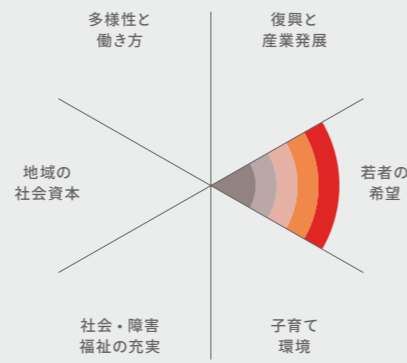




**AKIU SCHOLE**  
代表

## 伊藤 真結

所在地  
宮城県 仙台市  
出身地  
宮城県 仙台市



### すべての人が、自分の心に正直に挑戦し、輝ける世界。

主に 10 代後半の中高生向けに、自分の人生を心地よく生きて行く力を育むための授業を提供、および学校の運営をする。教育活動全般において、自分と向き合い、自分の頭で考え、他者との議論を通して自らの考えを表現する力を育む。

仙台市のはずれにある人口 5000 人程度の小さな田舎町で月に 2 回開校。

- わたしが大切にしているインパクト

授業提供出来た生徒数

**14**  
人

自分の選択で進路選択をした生徒数

**1**  
人

- 連携団体

- 年間予算

**30**  
万円

- 参画している仲間の数

	域内	域外
従業員	-	-
業務委託	-	-
アルバイト	-	-
プロボノ	-	-
ボランティア	-	-

■ 団体

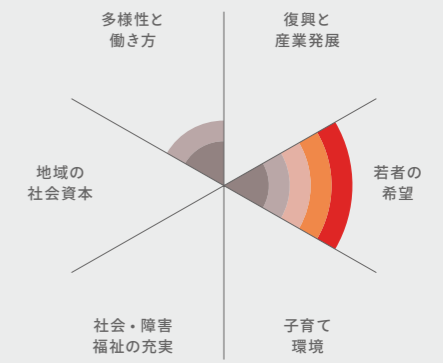
■ 人



**株式会社 dreamLab**  
代表取締役

## 小川 智美

所在地  
福島県 いわき市  
出身地  
福島県 三春町



### 子どもたちが小さな成功体験を積み重ね、夢を描き、世界へ羽ばたく。

DreamLab のアフタースクール事業では、課題を発見し、考え、行動する「生きるチカラ」を育む体験型の学習プログラムを提供しています。

ネイティブの外国人講師と一緒に過ごしながら、様々な学びを重ねていきます。経験値を増やすことで、生きるチカラの土台となる非認知能力を身につけます。

また、塾事業では、受験勉強や各種大会対策の強化練習、留学や将来の夢に向けての勉強など、個々の目的に合わせたカスタマイズ学習を行っております。

- わたしが大切にしているインパクト

WS を提供できた子供達の数

**700**  
人

未来マップ WS を実施する学校の数 (人数)

**150**  
人

- 連携団体

- いわき市
- いわき商工会議所

- 年間予算

**1400**  
万円

- 参画している仲間の数

	域内	域外
従業員	2	2
業務委託	-	-
アルバイト	13	-
プロボノ	-	-
ボランティア	10	5

**2**  
団体

**32**  
人

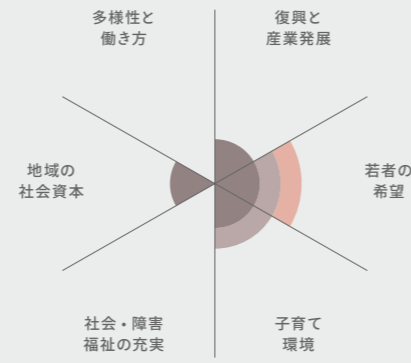




けせんぬま旅する学校  
共同代表

## 杉浦 美里

所在地  
宮城県 気仙沼市  
出身地  
静岡県 浜松市



### 「大人も子どもも凸凹であれ」 誰もが自然に生きる社会へ。

けせんぬま旅する学校プロジェクト

2017年からはじめた0~2歳児親子を対象とした森のようちえん活動に、不登校の子どもたちが遊びに来てくれるようになったことがきっかけで、2021年4月からこの活動を開始しました。

気仙沼の自然豊かな暮らしの中で、子どもたちと、親と、地域の人たちでつくる不登校・子育て支援コミュニティです。校舎はなく、まち全体が教室。海・山・寺・ツリーハウスなど、季節に合わせて様々な場所で、自然体験を軸に過ごしています。

- わたしが大切にしているインパクト

年間の活動回数

**96**  
回 (2月末現在)

年間の参加延人数

**1500**  
人 (2月末現在)

- 連携団体

- 気仙沼市
- 気仙沼子育てコレクティブインパクトプラットフォーム「コンダテノミカタ」
- NPO 法人 浜わらす
- NPO 法人 ピースジャム
- 一般社団法人 気仙沼あそびーばーの会
- 一般社団法人 おりがみ
- 東北ツリーハウス観光協会
- ともしびプロジェクト
- 森の寺小屋
- 里山ジャパン
- アフロ巧業
- アトリエスピカ など

**18**  
団体

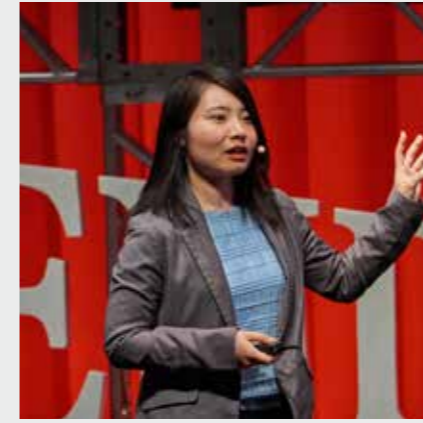
- 年間予算

**300**  
万円

- 参画している仲間の数

	域内	域外
従業員	2	-
業務委託	8	-
アルバイト	-	-
プロボノ	-	-
ボランティア	15	-

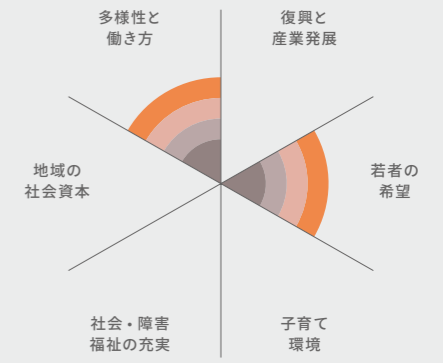
**25**  
人



Fantrobar  
代表

## 飯田 有紀子

所在地  
宮城県 仙台市  
出身地  
静岡県 静岡市



### 一人でも多くの若者が自分らしく生き生きと生きることができる社会の実現。

自身の原体験から社会人2年目に若手社会人のモヤモヤをシェアする不安吐露場を作りたいと開店した Fantrobar。

2022年の3/12で3周年を迎えた Fantrobar は、コロナや主催の飯田の異動もあり、当初仙台で実施していた座談会や立ち飲み形式でのリアル開催からオンラインと形を変えて来ました。

そしてさらに2021年12月から新たに金山町とのコラボ企画も始まりました。1人でも多くの人の居場所になるべくこれからも毎月店を開けていきます。

- わたしが大切にしているインパクト

もやもやが晴れたと言ってくれた人の数

**30**  
人

常連数 (2回以上参加した人数)

**50**  
人

- 連携団体

- ONETOHOKU
- 山形県金山町

**2**  
団体

- 年間予算

**20**  
万円

- 参画している仲間の数

	域内	域外
従業員	-	-
業務委託	-	-
アルバイト	1	-
プロボノ	-	2
ボランティア	15	4

**22**  
人

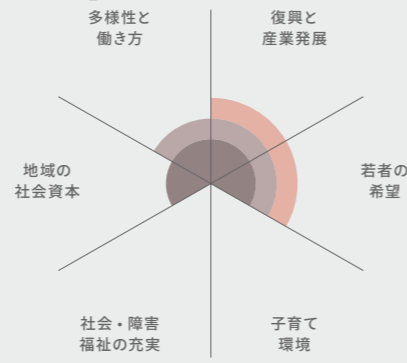




特定非営利活動法人まなびのたねネットワーク  
みやぎ子ども教育支援ネットワーク協議会「みずとわ」  
代表理事

## 伊勢 みゆき

所在地  
宮城県 仙台市  
出身地  
宮城県 仙台市



## 子どもも大人も学び合いで 笑顔とありがとうが広がる社会へ。

まなびのたねネットワークとみずとわでは、学校教育と社会教育の支援を行っています。学校教育支援では、学校のニーズに応じたキャリア教育のプログラム企画開発、企業とコラボした体験型プログラムの実施や教育旅行の企画コーディネーションを行っております。

社会教育支援では、教育に関わる大人の人材育成を中心に高校生向けのサードプレイス事業をはじめとしたニーズに応じたプログラムの開発とプロデュースを行っております。

### - わたしが大切にしているインパクト

受益者が「楽しかった・為になった」と思う数



講座受講者の講座への満足度



### - 連携団体

- 宮城県教育委員会
- 仙台市教育委員会
- 名取市教育委員会
- 石巻市立桜坂高等学校
- 宮城県、仙台市内小・中・高校
- 湊水産株式会社
- 株式会社ワイ・デー・ケー
- 宮城県福祉人材センター
- 女川町観光協会
- 一般社団法人とちぎ市民協働研究会
- 認定NPO法人 Switch など



### - 年間予算



### - 参画している仲間の数

	域内	域外
従業員	12	-
業務委託	3	-
アルバイト	15	-
プロボノ	2	1
ボランティア	170	-



### 3. Social Entrepreneurs

解決を目指す東北の社会課題

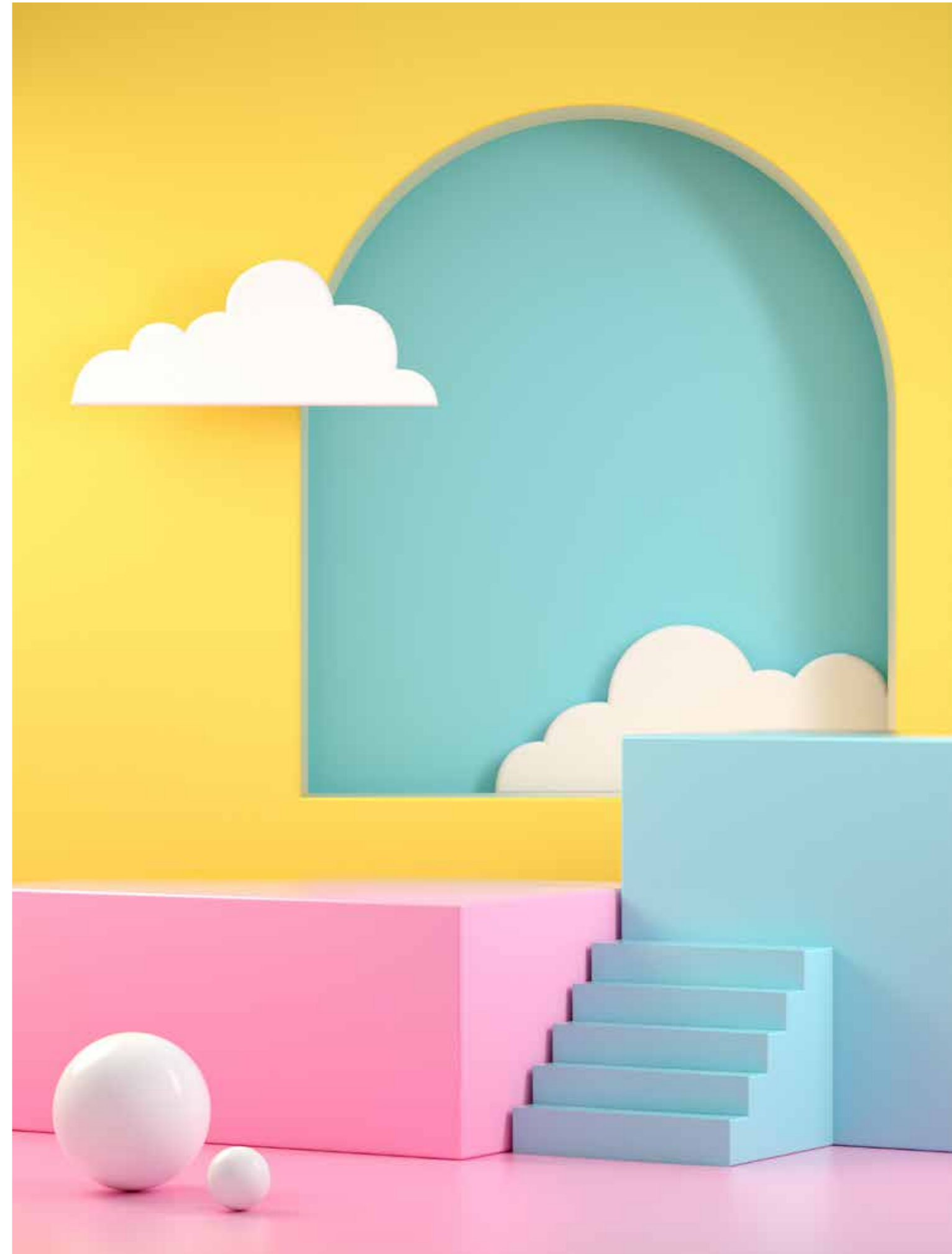
## 子育て環境

C

06

### 子育て環境と携わる人々の負担

子どもを産み育てやすい環境づくりを目的に、地域で子育て支援をする機会や携わる人々の負担削減に関連する取り組み。



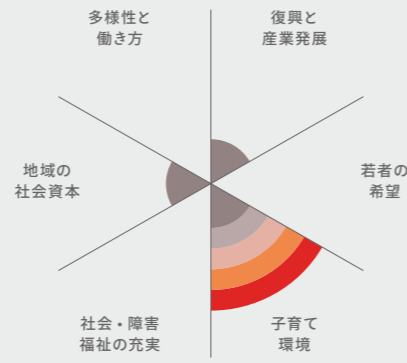




一般社団法人 くるむ  
代表理事

## 佐藤 里麻

所在地  
宮城県 仙台市  
出身地  
宮城県 仙台市



### すべての赤ちゃんが 祝福と応援にくるまれる社会

小さく生まれた赤ちゃんは、体に合う肌着が簡単には手に入らないため、オムツだけで入院していることが多くあります。くるむの肌着を着せることで、親としての幸せな仕事を増やし「面会」を「子育て」に変えたいのです。

また、肌着をギフトとして贈ることで、母親の孤立を防ぎ、愛情を育むきっかけを作っています。

全ての赤ちゃんのサイズに対応できる手作りキットも企画しており、家族や友人がお母さんと赤ちゃんのことを想う「時間」を形にして贈る、新たな文化を生み出していきます。

#### - わたしが大切にしているインパクト

子に肌着を着せることによる  
母親の気持ちの変化

今後計測予定

ギフト満足度調査  
- 贈り手の満足度

98%

#### - 連携団体

- NICUのある医療機関、助産院など
- 国内のベビー服製造会社

3  
団体

#### - 年間予算

100  
万円

#### - 参画している仲間の数

	域内	域外
従業員	3	1
業務委託	-	-
アルバイト	-	-
プロボノ	-	-
ボランティア	1	5

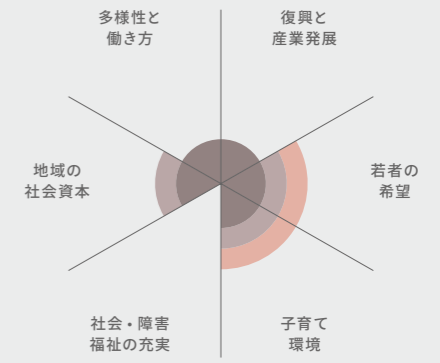
10  
人



NPO 法人 STORIA  
代表理事

## 佐々木 綾子

所在地  
宮城県 仙台市  
出身地  
宮城県 仙台市



### 貧困の連鎖を断ち切り、「支えられる人」 から「支える人」へと愛情が循環する 社会をつくる。

2016年より、子どもの貧困という社会課題に対し、貧困の連鎖を断ち切り「愛情が循環する未来」へ、というビジョンのもと、困難を抱えるご家庭の子どもたちに、たくさんの愛情と、生まれ持った可能性が十分に発揮される様々な体験の機会を作りながら、子どもたち一人ひとりと寄り添う居場所活動を行ってきました。

2021年度からは仙台市と協働し、孤立家庭を防ぐためのアウトリーチ事業、ひとり親生活向上支援事業を開始し、親御さんと子ども達を包摂するサポートを行っています。

#### - わたしが大切にしているインパクト

アウトリーチ数  
(リーチ率 54.5%)

654  
世帯

保護者の精神的安定・  
課題の減少

約 3  
割

#### - 連携団体

- 仙台市子供未来局
- 仙台市内の区役所
- フードバンク仙台
- 居場所の自治会
- 民生委員 など

12  
団体



#### - 年間予算

1800  
万円

#### - 参画している仲間の数

	域内	域外
従業員	10	-
業務委託	-	5
アルバイト	-	-
プロボノ	1	35
ボランティア	162	-

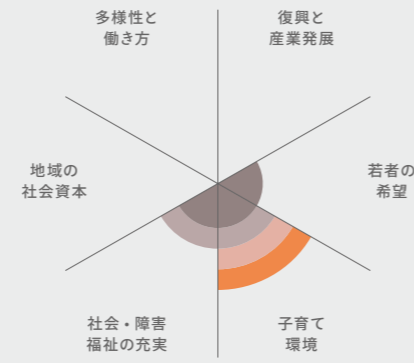
213  
人



株式会社 マナライブ  
代表取締役

## 木村 一也

所在地  
宮城県 亶理町  
出身地  
宮城県



### 支援の循環、異才の承認で、親子が未来に希望を持つ。

教育・人材育成に関する課題と一緒に解決するパートナー。息子の発達障害の発覚がきっかけで、障害児を預かる放課後等デイサービスで起業。

現在は、気仙沼市の ICT 支援員配置事業を受託。小中学校の ICT 機器のメンテナンスと研修を実施している。さらに、富谷市で市長が塾長の起業創業塾「富谷塾」の企画運営を行なっている。

障害児も含めた誰も取り残さない教育を支援し、突出した個性が活かせる「チガウってカッコイイ」と言える社会の実現を目指している。

#### - わたしが大切にしているインパクト



#### - 連携団体

- 気仙沼市教育委員会学校教育課
- 富谷市経済産業部産業観光課
- 宮城県経済商工観光部産業人材対策課
- 気仙沼市産業部 産業戦略課
- 富谷市教育委員会学校教育課
- みやぎ子ども教育支援ネットワーク協議会 みずとわ
- 特定非営利活動法人まなびのたねネットワーク

**7**  
団体

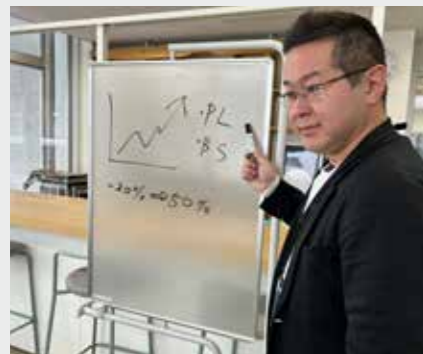
#### - 年間予算

**1900**  
万円

#### - 参画している仲間の数

	域内	域外
従業員	4	4
業務委託	6	2
アルバイト	-	-
プロボノ	-	-
ボランティア	-	-

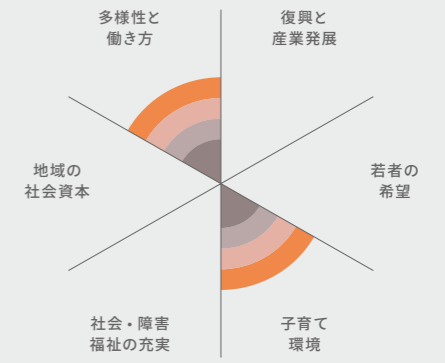
**16**  
人



FourS 株式会社  
代表取締役

## 佐々木 拓哉

所在地  
宮城県 仙台市  
出身地  
宮城県 名取市

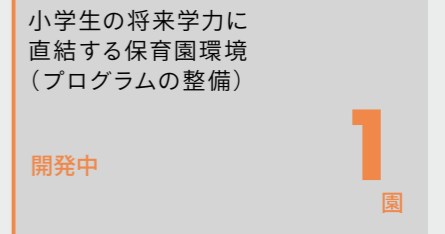
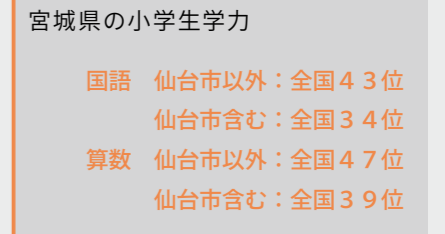


### 確かな繋がりや安心の中で、関わる全ての人々が未来を描ける子育て社会。

防犯カメラ等のセキュリティ商品の小売・卸売りをメインに、情報通信機器を取り扱っています。一方で保育園運営にも携わっており、メイン商材である情報通信機器を保育業界に導入しより良い環境を整備するためにシステムの開発も行っています。

未来を担う子どもたちにできる限り多くの経験と刺激を提供し社会に送り出すとともに、情報通信技術を駆使して子育てに関わる全ての人々が繋がる社会を目指して業務を行っています。

#### - わたしが大切にしているインパクト



#### - 連携団体

- 保育園
- 幼児教育ツール開発会社
- 飲食店運営会社
- ソフトウェア開発会社
- 幼児教育施設運営会社
- 教育研究団体
- 大学

**7**  
団体



#### - 年間予算

**1000**  
万円

#### - 参画している仲間の数

	域内	域外
従業員	2	-
業務委託	15	-
アルバイト	-	-
プロボノ	-	-
ボランティア	-	-

**17**  
人

### 3. Social Entrepreneurs

解決を目指す東北の社会課題

## 社会・障害 福祉の充実

D

07

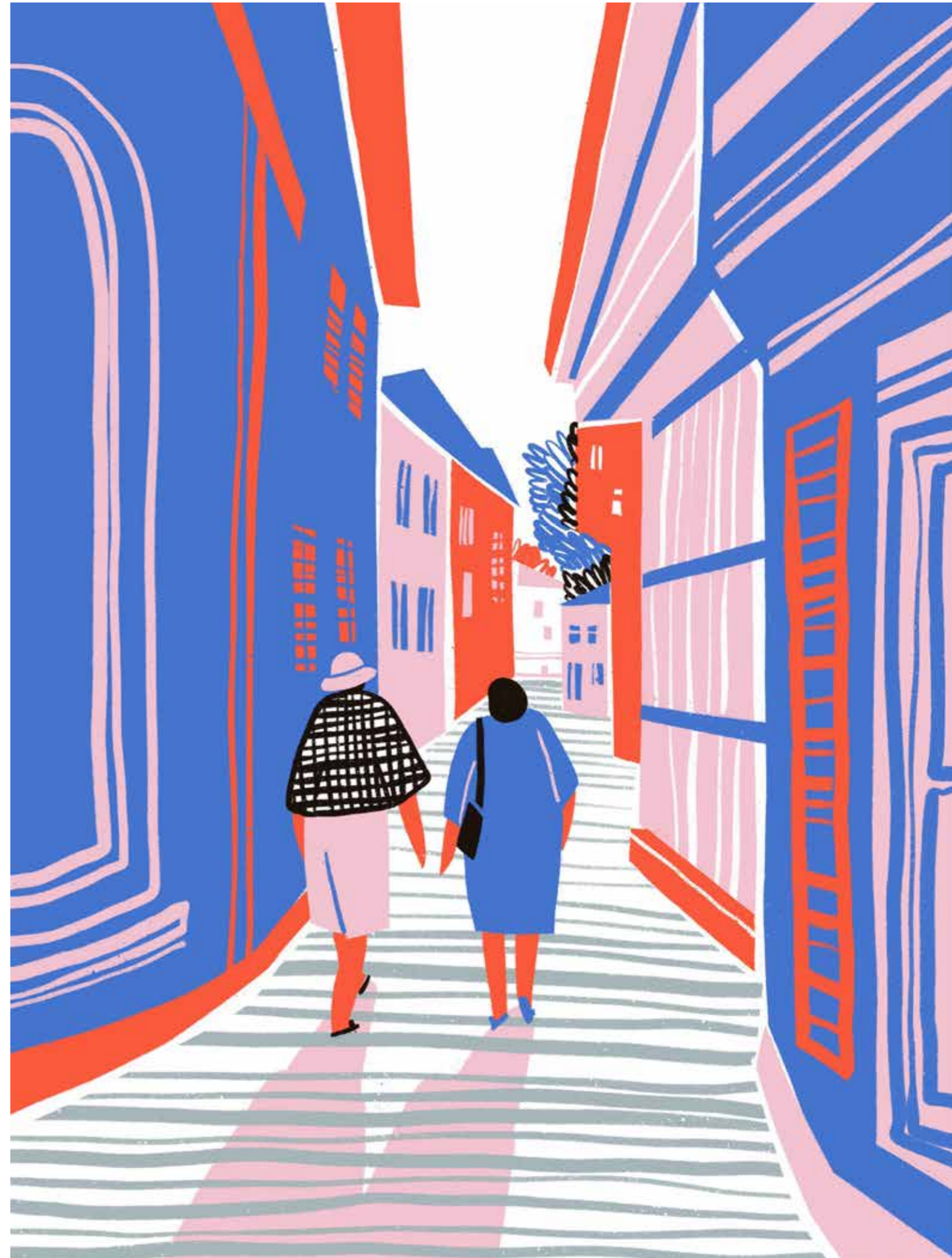
#### 社会・障害福祉サービス及びその人材の不足

福祉サービスにおける人材確保や処遇改善を行い、働き手と共に利用者同士が支え合える環境づくりに関連する取り組み。

08

#### 社会・障害福祉関係者へのサポートの不足

福祉サービスにおける利用者の家族や従事者のサポートを通じて、地域コミュニティ活性化に寄与する取り組み。

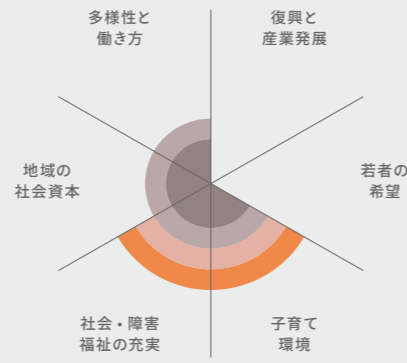




株式会社ゆらリズム  
代表取締役

## 野崎 健介

所在地  
宮城県 仙台市  
出身地  
東京都 練馬区



### 音楽を通じた共生社会の実現。

仙台市にて介護福祉事業を展開。音楽を活用した介護予防型デイサービスや放課後等デイサービスの運営。また研修派遣事業や海外事業も展開。  
音楽を通じて年齢、性別、障害、国籍などの「バリア」を「フリー」にする「共生社会」の実現を目指している。

#### - わたしが大切にしているインパクト



#### - 年間予算



#### - 参画している仲間の数

	域内	域外
従業員	22	-
業務委託	-	-
アルバイト	12	-
プロボノ	-	12
ボランティア	20	-
<b>合計</b>	<b>66</b>	<b>12</b>

#### - 連携団体

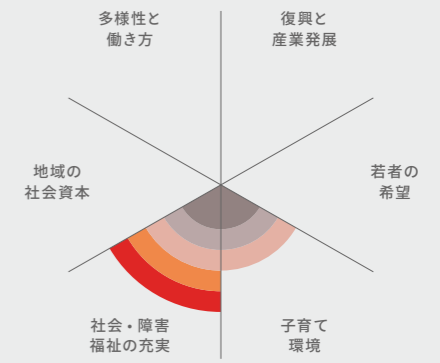
- 仙台市健康福祉局介護保険課
- 仙台市地域包括支援センター
- 仙台市泉区南光台町内会
- 仙台フィンランド健康福祉センター
- 加美町国立音楽院
- JICA 東北
- JICA ブラジル
- サンパウロ市役所
- ブラジル州立サンパウロ大学
- 宮城ブラジル友好協会
- 株式会社モネテクノロジーズ
- 株式会社ヨークベニマル
- 株式会社エムズ
- 七十七銀行
- など



みんなのそら (の中で Happy Note)  
代表 社会福祉士

## 平形 洋司

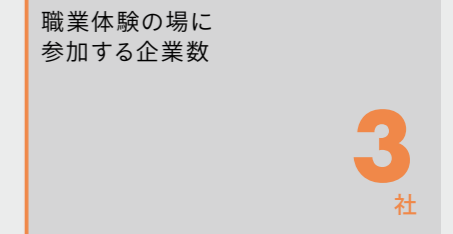
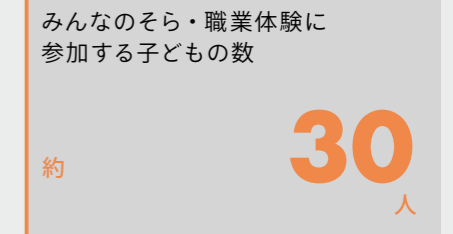
所在地  
山形県 鶴岡市  
出身地  
山形県 鶴岡市



### 生きているすべての人たちがあたたかく受け入れられる社会を。

障害を持つ人やそのご家族をサポートするプロジェクト「Happy Notes (ハッピー ノーツ)」を進めています。日々の出来事を気兼ねなく語り、同じような立場の家族と情報交換できる場を作ることで、孤独感や不安感を少しでも減らすことができたらと思います。  
ビジョンは「だれもがあたたかく受け入れられる社会を。」とし、保護者がリラックスできる取り組みや情報提供などを行ってきました。今後は障害の理解について広められるような取り組みも行っていく予定です。

#### - わたしが大切にしているインパクト



#### - 連携団体

- 障害理解に協力的な企業
- 職業体験などを提供する企業
- 自治体
- 相談事業所
- 協力頂いている福祉法人



#### - 年間予算



#### - 参画している仲間の数

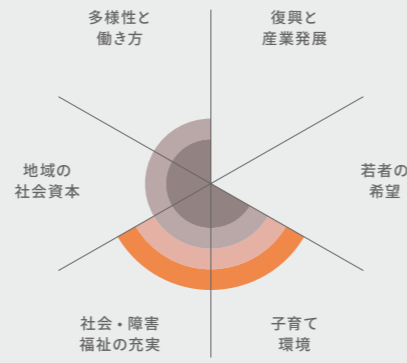
	域内	域外
従業員	3	1
業務委託	-	-
アルバイト	8	-
プロボノ	-	-
ボランティア	50	-
<b>合計</b>	<b>62</b>	<b>1</b>



四方よしの医療  
代表

## 佐藤 京子

所在地  
-  
出身地  
東京都 豊島区



### すべての人が最期まで いのち輝く生き方ができる社会へ。

医療・介護の現場で真の意味で患者と家族のニーズを聞ける人がどれだけいるだろうか。患者や家族は、医療者の説明を理解できているだろうか。大切なことを医療者に伝えられていないのではないだろうか。本当に必要な医療を必要な分、受けることができているだろうか。そして医療介護従事者はたくさんのストレスを抱えている。離職率も高い。

医療・介護の従事者に「心に寄り添う」コミュニケーション方法を伝え、仲介者を養成することで四方よしの医療を実現します。

- わたしが大切にしているインパクト

関与施設 **2**カ所

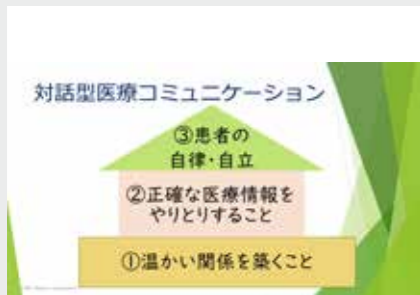
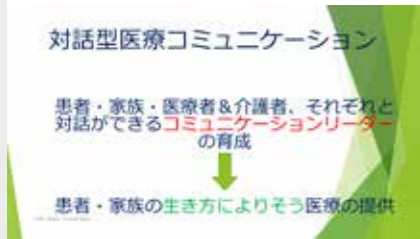
受講者数 **150**人

- 年間予算

万円

- 参画している仲間の数

	域内	域外
従業員	1	-
業務委託	-	-
アルバイト	-	-
プロボノ	-	-
ボランティア	-	-
<b>合計</b>	<b>1</b>	<b>1</b>



- 連携団体

- 医療法人やまと
- 一般社団法人 BEARS GATE

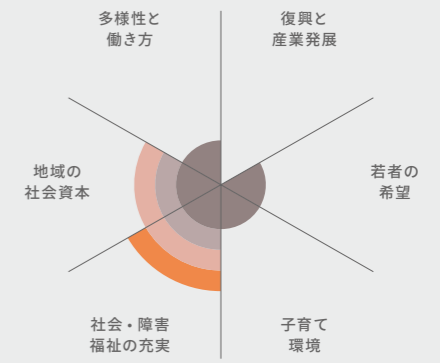
**2** 団体



マイムケア / 特定非営利活動法人スロコミ  
介護事業部長 / 代表理事

## 林 久美

所在地  
宮城県 仙台市  
出身地  
福島県 白河市



### 認知症・要介護・子供も含め全ての人に 出番、役割のある総活躍スローコミュニティ。

私たちマイムケアは、仙台市内で誰でもが当事者になり得る、要介護や認知症という社会課題に対し、居宅介護支援、サービス付き高齢者住宅、訪問介護と小規模多機能型居宅介護を提供しております。

また、特定非営利活動法人スロコミでは、要介護や認知症になった人でも地域の人々とともに暮らしていける環境として開設した、地域交流スペース「マイムテラス」を軸に「誰もが総活躍できるスローコミュニティ」を目指しています。

- わたしが大切にしているインパクト

幸せになるために  
関わってくださる方々  
(参画者の数) **80**人

地域と繋がりを  
持ち続けられている  
利用者の数 **300**人

- 連携団体

- ピープルデザイン研究所
- ミライデザインワークス
- 東北学院大学東北学院中高
- 向山こども園 (幼稚園)
- 介護保健サービスの業者多数など

**80** 団体

- 年間予算

**20000** 万円

- 参画している仲間の数

	域内	域外
従業員	38	2
業務委託	-	-
アルバイト	39	1
プロボノ	-	-
ボランティア	-	-
<b>合計</b>	<b>80</b>	<b>3</b>



### 3. Social Entrepreneurs

解決を目指す東北の社会課題

## 地域の社会資本

E

09

#### コミュニティの希薄化と地域社会の衰弱

各地域社会の連帯意識を強化し、地域コミュニティの関わり合い増加と活性化に関連する取り組み。

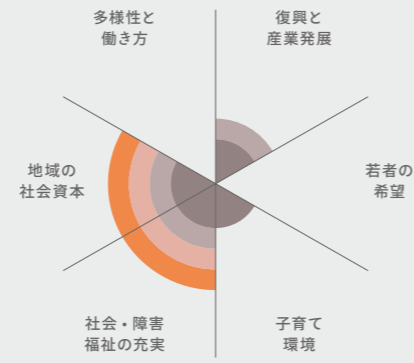




一般社団法人 りぶらす  
代表理事

## 橋本 大吾

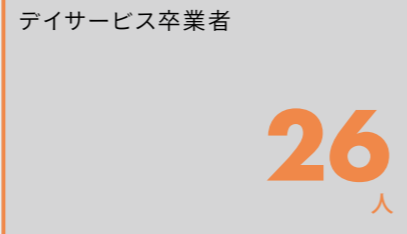
所在地  
宮城県 石巻市  
出身地  
茨城県 鹿嶋市



## 健康的な「ありたい暮らし」をカタチにできる社会と未来を目指して

2013年より、宮城県石巻市で地域住民とともに、リハビリ型テイサービス事業、コミュニティヘルス事業や仕事・家庭と介護の両立にかかる研修事業を展開。隣接する登米市にも展開し、地域の利用者とともに、子供から高齢者まで病気や障害の有無にかかわらず地域で健康的に暮らせる社会を創造するべく様々な取り組みを実施。例えば、介護サービスから卒業"も"できるテイサービスなどを通じて未来へ紡ぐ地域創りを行う。

### - わたしが大切にしているインパクト



### - 連携団体

- 石巻市
- 特定非営利活動法人いしのまき NPO センター
- 地域包括支援センター
- 社会福祉協議会
- 特定非営利活動法人ベビースマイル石巻
- 一般社団法人 world in you
- NPO 法人 ETIC.



### - 年間予算



### - 参画している仲間の数

	域内	域外
従業員	30	-
業務委託	-	5
アルバイト	10	-
プロボノ	-	20
ボランティア	5	-
		70人

### 東北に通う中で、「当たり前」が当たり前ではないことに気がついた

僕は茨城県鹿嶋市出身で、27歳のときに理学療法士の資格を取り、埼玉県で仕事をしていました。31歳のときに起こった東日本大震災を機に、リプラスの前身となった。それがご縁となり、ETICさんを通じて2011年12月に石巻に移住しました。2013年にリプラスを立ち上げ、同年5月から石巻に、2015年3月には登米市にも拠点を構えサービスを展開しています。

関東に住んでいると、人も食もエネルギーも医療もあるのが「当たり前」という感覚になってしまうんですね。一方で、東北では人は少なくなってきていて、食も電気も実は東北でつくられていたものが関東に流れていて、東北出身の医療従事者が東京で働いているケースもたくさんあります。東北に通う中で、地域格差かもしれないしある意味では資本主義社会の必然かもしれませんが、そういうことを認識せずに生きてきたという事実が気がつきました。関東であれば僕がいてもなくても代わりの人はいっぱいいますが、東北にはそんな僕でも役に立てそうなことがあり、必要としている人も非常にたくさんいる。いち個人として世の中の役に立つのはどっちなかと考えたときに、やはり東北だなと思いました。ここに来ていなかったら、移住はしていなかったら、東北や震災のことも他人事になっていたかもしれません。

キーワードは「介護からの卒業」

僕たちのビジョンは、「子どもから高齢者まで、病気や障害の有無に関わらず、地域で健康的に暮らし続けることができる社会を創造する」です。そのために、僕たちに関わる人々、そして僕たち自身が、健康的で在りたい暮らしを形にするために最適な取り組みをしていくことをミッションに活動しています。

中心事業は3つで、1つ目は介護や障害がある方向けの制度的サービス、2つ目がそもそも介護が必要とならないように地域の健康づくりを行って健康寿命を延ばしていくコミュニティヘルス事業、3つ目が、とはいえ介護を100%予防することは難しいので、必要になったときに、特に就労世代の介護離職や介護鬱を予防して仕事と介護の両立を支援する事業です。

僕たちは、介護保険を使わないで生活できるようになる状態を「介護からの卒業」と呼んでいます。介護保険を利用するきっかけは、人によってさまざまです。例えば少しずつ体力が落ちてきた方がリハビリを機に介護保険を使ったり、脳卒中や骨折などある出来事を境に自宅での生活が難しくなって介護保険を使い始めたり。僕たちのようにサービスを提供する側からすると、一定の割合で良くなる人や介護を卒業できる人がいることも知っていますが、一方で介護保険ユーザーの方々には「一度介護が必要になったらもう良くはならない、できても維持するのが精一杯だ」という認識をお持ちの方が多く、情報の非対称性が大きいと感じています。

### 資源の固定化という大きな課題を解決する「協働」の可能性

地域に限らず、全国的に介護離職や介護うつは問題であり、さらに深刻化していくと予想されます。共通しているのは担い手の絶対数の不足と、地域偏在です。それらの背景には、社会の変化に対して資源・資本の流動性が低く、固定化していることが大きな課題だと感じます。

### 資源の固定化、つまり資源が偏在しており、流動性が非常に低いことが大きな課題

地域に必要な人や組織に資源が移りやすくなることで持続可能性が高まるのが重要ですが、それにはやはり1団体だけでは難しい。企業や行政などの協働によって外部環境を変えていく必要があります。例えば、介護離職を予防する活動に企業がお金を出して従業員向けのプログラムを実施するといった選択肢も考えられますよね。

### 震災から10年、地域の人へバトンをつなげる

### 「自分たちの住みたい地域はやはり地域の人たちにつくってほしい」

創業時より震災から10年を一つのフェーズで考えてきました。初期はどうしても僕が引っ張るような形で、トップダウンなコミュニケーションが多くなってしまいましたが、「自分たちの住みたい地域はやはり地域の人たちにつくってほしい」という想いのもと、少しずつ地域の人へバトンタッチをしています。僕がその道を塞いでしまっていた部分もあり、僕自身の在り方や役割を変えていかないと新しい役割や道はできないので、特にこの2年程はこれからどうしていきたいかについてそれぞれ対話する時間が増えました。これからは遠隔で人材の育成やマネジメントをしながら、必要な新規事業開発などに取り組んでいく役を担っていくつもりです。

介護は、ある日突然やってくるため、確実に家族間の問題にぶちあたります。介護に対する価値観や死生観、誰が介護するか、誰がお金を払うのかなどがすり合わせていない場合、家族間の思いが乖離した状態で介護が始まります。こうした家族の成り立ち、時間とともに変わる価値観や想いなどを共有することも大切だと思っています。そういう仕組みづくりを誰とどうやって進めるかについても、今考えているところです。

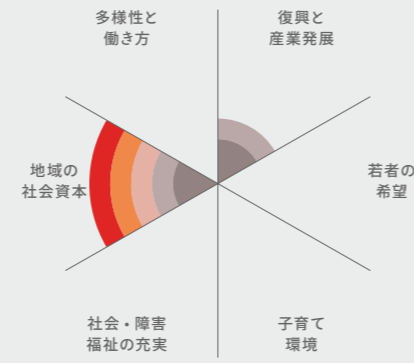
経営について全く分からない僕がこの10年やってこられたのは、たくさんの方が支えてくださったからです。今後は、これから起業しようと思っている方やすでに起業してる方に対しても、メンタルヘルスやメンタリングなどのサポートができればと思っています。



ネヒラキ  
代表

## 瀬川 然

所在地  
岩手県 西和賀町  
出身地  
岩手県 西和賀町



### Feel The Real 感受性・身体性を取り戻せる故郷を創る。

豪雪地帯西和賀の自然が魅せる一瞬の煌きに案内するツアー。錦秋湖の満水期のカヌーツアーや、厳冬期に見られる氷瀑ツアーなど。2020年夏に自宅をセルフリノベーションしカフェをオープン。地域の内外をつなぎ、ここで生きる豊かさを模索する事業を展開中。

#### - わたしが大切にしているインパクト

自分達の取り組みがきっかけで、地域内で新しい取り組みが生まれているか。

- 自信を持って紹介できるプレイヤーの数

15  
人



#### - 連携団体

- 農家
- 木工職人
- 国交省 など

10  
団体

#### - 年間予算

200  
万円

#### - 参画している仲間の数

	域内	域外
従業員	2	-
業務委託	-	-
アルバイト	3	-
プロボノ	-	2
ボランティア	-	-

7  
人



### 3. Social Entrepreneurs

解決を目指す東北の社会課題

## 多様性と働き方

F

10

#### 多様な働き方や人生の選択肢の不足

立場に関係なく、個人の生き方や働き方が尊重されながら多様な選択肢を実現できる機会づくりに関連する取り組み。

11

#### 女性の労働人口・所得の低さと機会格差

女性が人生選択において幸せな生き方と働き方を考えられてそれを追求できる社会づくりに関連する取り組み。

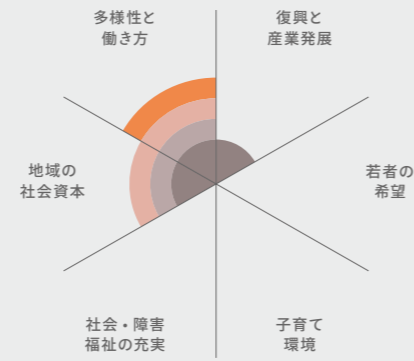




合同会社 巻組  
代表社員

## 渡邊 亨子

所在地  
宮城県 石巻市  
出身地  
埼玉県

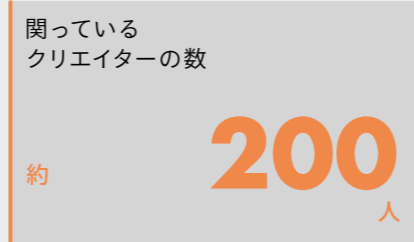


## 「一見無価値な不動産を資源としてクリエイティブな人々につなげていくこと」

巻組の仕事は、「場所づくり」「人材プラットフォームづくり」の両輪を回して好循環を形成すること。そして、その循環をサポートする様々なクリエイティブ・サービスを提供すること。それにより、人口減少が進む地域を「オモシロイ」場所にして、誰もが「心が喜ぶ幸せな生き方」を追求できる環境づくりを目指します。

そこに暮らす人が価値を創造するために、無価値に見える不動産を資産化して提供する。その集積によって、人口減少が進む地域はむしろイノベーションを生む土壌に生まれ変わる。

### - わたしが大切にしているインパクト



### - 連携団体

- ガイアックス株式会社：業務資本提携
- 一般社団法人はまのね：共同プロジェクトなど



### - 年間予算



### - 参画している仲間の数

	域内	域外
従業員	6	-
業務委託	2	-
アルバイト	2	-
プロボノ	10	40
ボランティア	100	-
<b>合計</b>	<b>120</b>	<b>40</b>

**160**  
人

### 大量生産・大量消費社会の在り方を根本的に変える

私たちのミッションは、空き家を資源としながら自分らしい幸せな生き方を切り拓いていける人材を増やしていくことです。

震災を機に東京から移住し、石巻市を拠点に空き家活用や人材誘致などに取り組んできましたが、一方で新築住宅が大量に供給され空き家がどんどん増えていく状況に大きな絶望感を味わいました。大量生産型の社会のあり方を根本的に変える必要がある。そのため、クリエイティブな力を持った人たちの存在が鍵だと考えています。

私たちのもとにやってくる空き家の多くは、ご両親の施設入所や他界を機に相続された物件です。相続したものの、子世代は都市部に出ていて使わない。直すにも壊すにもお金がかかるけれど、放っておくとボロボロになる。昔は世帯あたりの人数も多く大きな家にみんなで住んでいましたが、現代のコンパクトな家族にはあまり向いていません。

また、不動産の在り方も非常に固定的です。契約には何年も縛りがあって、面倒な手続きがあって、35年ローンで…。こうした仕組みのままでは、人口が減っていくのにストックはますます増えてしまいます。事業を進める中で、家族の在り方や地域への関わり方が多様化し、不動産の仕組み自体が変化しないと、空き家資源の活用には至れないと考えるようになりました。

Rooptというサービスは、民泊とシェアハウスを組み合わせた空き家活用事業です。例えば普段は東京に住んでいるけれど、好きな地域がありそこに関わってみたいという人が、トランク1つで暮らすことができるように基本的な設備を用意しています。

そもそも賃貸契約というのは1日から契約可能なのですが、ほとんどの事業者は手間がかかるリスクもあるので選択しません。しかし、連帯保証制度や審査、2年毎の更新や違約金などのルールによってとりこぼしてる層は多いと感じています。Rooptでは、誰にとっても入りやすく出やすい形にすることで、移住するだけが家族や家の在り方、あるいは地域との繋がりが方じゃないと思ってもらえるような、もっと手軽で柔軟な仕組みをめざしています。

### 移住するだけが家族や家の在り方、あるいは地域との繋がりが方じゃない

#### 「等身大の幸せな暮らし」を営むクリエイティブな人たち

私たちの会社のおもしろさは、地域内外のさまざまな価値観を持ったクリエイティブな人たちが、同じプラットフォームにいることだと感じています。

クリエイティブな人というのは必ずしも、デザインや製作をする人ではありません。私たちのコミュニティには、漁業と狩猟をして暮らす女性ユニット、針仕事で生計を立ててる人、狩猟しながら現代アートをする人など、地域ならではの仕事をしつつ自由に生きてる方が多くいらっしゃいます。

便利すぎない暮らしの中で、1人ひとりが自分のクリエイティビティーに目覚めていくのかもしれない。皆さんそんなに所得は高くないですが、すごく幸せそうなんです。そんな「自分なりに幸せで、それでいい」という生き方を発信して、このコミュニティを可視化していくことを大切にしていますし、そういった生き方の受け皿になれることもまた、地方の存在価値だと思っています。

### 「自分なりに幸せで、それでいい」という生き方を発信

リモートワークのような働き方がもっと一般的になれば、東京でサラリーマンをしながら週末は漁業やろうという暮らし方も、遠い未来の話ではないですね。

### 東北から、日本を変え、世界に誇れるような企業が生まれる

多様な人材が石巻に増えてきたことによる地域へのインパクトとして、地元の子どものキャリアイメージが大きく広がってきているのを感じています。

### 地元の子どものキャリアイメージが大きく広がってきている

田舎に住んでるとどうしても、子どもたちが持つキャリアイメージや考えることができる職業選択の幅は狭くなりがちです。でも、ユニークな生き方を選択している大人たちと出会う中で、高卒でいいやと思っていた子どもたちが「大学進学をめざしてみようかな」と思えたり、「新卒採用じゃなくても、いくつかの会社を手伝いながら生きていけるかも」とどっしり構えられるようになってきています。こうした子どもたちの価値観の変化が、巡り巡って人材の定着にもつながっているように思います。

私たちはまだまだ小さい会社ですが、立ち上げ当初とは課題意識が変わってきています。まずはこの事業をしっかり拡大して、住宅業界に対してインパクトを持てる会社になりたい。そのためにも、利益を出せるということ、他地域でも展開できるモデルだということをしっかり訴えかけていきたいです。

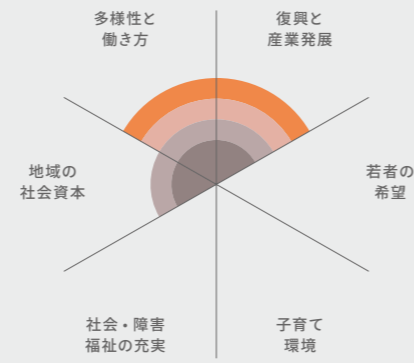
東北から、日本を変えられるような、世界に誇れるような企業が生まれることはとても重要なことだと思っています。そこに対して貢献できるようになりたいし、その挑戦を通じて、心が喜ぶ気持ちのいい暮らしをクリエイティブな人材が、社会が増えていくといいなと願っています。



株式会社 WATALIS  
一般社団法人 WATALIS  
代表取締役 / 代表理事

## 引地 恵

所在地  
宮城県 亶理町  
出身地  
宮城県 亶理町



## 日本の美しさとの出逢いを創り、幸せを世界につなぐ

WATALIS は、筆筒に眠る古い着物地をリメイクし、再び世に送り出す「アップサイクル」に取り組むブランドです。

宮城県南部にある亶理町の女性達が着物地の色や柄を活かしながら、ひとつひとつ丁寧に手作りし、長い歴史の中で培われてきた日本の意匠の美しさに新たな命を吹き込んでいます。

“ものを最後まで大切に使い切る”という古き良き再生文化を受け継ぎ、縁起の良い文様に込められた人々の幸せを願う心を、沢山のの人に伝えていきます。

### - わたしが大切にしているインパクト

アップサイクルの成果  
着物地回収量

10440 kg

関係人口

- 着物提供者 - 支援者
- 顧客 - WS 参加者など

377 法人  
10256 人

### - 年間予算

3500 万円

### - 参画している仲間の数

	域内	域外
従業員	9	-
業務委託	75	-
アルバイト	-	-
プロボノ	-	10
ボランティア	10	50

385 団体

154 人

### - 連携団体

- 仙台市産業振興事業団
- みやぎ産業振興機構
- 亶理町 (名義後援)
- 宮城県
- 国土交通省
- 復興庁
- 経済産業省
- 農林水産省
- グリーンコープ生活協同組合連合会 など



### 地元にも自分自身にも 自信が持てなかったあのころ

私は大学卒業後、大日本印刷という企業に入社し、当時女性の総合職として初めて東北に配属されました。職場は男性たちが夜中まで働いているような環境で、女性の先輩もいなかったの、楽しかったけれどずっと仕事を続けていけるかは疑問でした。ちょうど地元の役場で新しく建てる資料館の募集があり、大学時代には教員免許や学芸員などの資格を取得していたので、それを機に転職し公務員になりました。

実は私、昔から地元である亶理町のことがあまり好きではありませんでした。田舎で、閉鎖的で、キラキラ輝いているものがなくてかっこ悪いなど思っていたし、仙台の高校に通うころにはその差をすごく感じていました。何よりそういう地域で育った自分自身に対して自信が持てませんでした。自分を変えたくていろいろやってみたけれど、世の中にはもっとすごい人がたくさんいて。仕事もかなり頑張っていたのですが、いつまでたっても自分を肯定できない感覚がありました。誰かに手伝ってもらうのも得意ではなく1人で抱え込んでしまいがちで、一時は休職せざるをえない状態にもなりました。

もっと自信を持ちたいと思って心理学などを勉強し、ポジティブな考え方やものの見方のトレーニングをして、ようやくできるようになってきたかなと思えたころに震災が起きました。極限状態の中、体験したことのない状況にさらされ心身ともにハードで、せっかく自分を変えられたのにまた戻ってしまったように感じました。震災の後に父が病気で亡くなったことで消化しきれない気持ちが溢れてしまい、いくら理屈で前向きにやれば良いと分かっているでもできませんでした。

### 地元の素敵なおばあちゃんに 人生のヒントを教えてもらった

当時は資料館の学芸員として町の民俗史を調べるフィールドワークをしており、あるとき地元の元気で明るいおばあちゃんに着物地で作られた巾着袋を見せてもらいま

した。「昔は農作業をするときに履くもんべを忙しい春になる前に、夜なべしてつくったり直したりするのが女の人の仕事だったのよ。もんべは着物地で作るのだけれど、そのときに出る端切れを使ってこういう巾着袋をたくさんつくっておいて、お礼をするときには自分でつくったお米を入れてあげるとどう渡していたのよ」と教えていただきました。

いつも楽しそうに暮らしているそのおばあちゃんの話に、生き方のヒントを見た気がしました。巾着袋をたくさんつくって貯めておくというところが、自分にありがとうと感謝する場面が訪れるのを予知するような、与祝の考え方だと思いました。その方はきっと、ありがとうというまなざしを携えて毎日を生きていて、だからそういう場面にもたくさん出会えるし、形にしてありがとうの気持ちを渡すからいただいた方も嬉しくて、また次のありがとうが訪れる。その方の人生にはそんな「ありがとうの循環」があるのかもしれないと思ったときに、もう1回自分を立て直すという気持ちになれました。

### 人生にはそんな 「ありがとうの循環」があるのかもしれない

その後、調査活動で呉服店を訪れた際に着物地をいただいたので、あの巾着袋を再現してみたいと思い、最初は本当に自分のためにつくりはじめました。そこからもっとたくさんの人に知ってほしくてデザインをアレンジしたり、縫い方もプロの先生に教わったり、そのうち一緒にやってみたいという仲間も増えてきて、手仕事のプロジェクトのような形でスタートしました。

### 地域のお母さんたちの声をもとに 在宅ワークのモデルを形に

始めは任意団体でしたが、役所を辞めて1年後には社団法人化して、ビジネスコンテストでも賞をいただくようになりました。その後、地域の資源を私たちの手でアップサイクルして価値を高め世の中に出していくと株式会社 WATALIS を立ち上げました。こちらでは着物地のリメイク雑貨の製造販売、地元の農産物などを加工したスイーツ

類の開発・販売などに取り組んでいます。震災以降若い世代が町から出ていってしまったため、緩やかに高齢化が進んでおり地域の行事なども減ってしまったので、社団法人で運営するカフェでは世代間交流ができるワークショップなどを開催しています。

活動を続けていく中で、特に地域のお母さんたちの「家に持ち帰ってできる仕事が欲しい」という声に気がきました。震災を体験しているから、遠くに働きに出るのは何かあったときに連絡が取れなくなったりするのが怖く、子どももまだ小さいから短時間勤務しかできないという人が結構いたんです。当時在宅でできる仕事は特別なPCスキルなどがなくて難しく、レジ打ちなどのパート職は震災で事業所自体が減っていたので厳しい状況でした。そこでアトリエを設けて着物地リメイクの制作キットを用意し、在宅でできる仕事をつくりました。決まった曜日にできた分をお持ちいただいた検品し、月締めで制作費をお支払いするスタイルです。在宅で自分のペースで働くことができ、一緒に勉強会をしたり納品に来たとき顔を合わせたりする仲間もできるモデルができました。

### 在宅で自分のペースで働くことができ、一緒に勉強会をしたり納品に来たとき顔を合わせたりする仲間もできるモデル

今後は、愛着を持って着物を大切にしてくられた世代から、日本の貴重な文化技術が詰まったお着物をお預かりして洋服などに身まとうものにリメイクすることにも挑戦していきたいです。

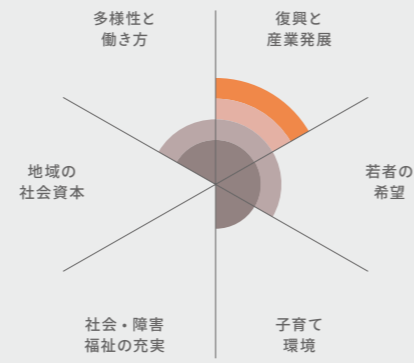
また、地域の使っていない農地などを活用して新しい価値を生み出したいと考えています。担い手が減り、昔は大事な資産だった農地が使われていない風景が、タンスに眠ってる着物地に似てるなど思ったことがきっかけです。農地再生の他にも養蜂など新しいプロジェクトは増えているのですが、どうしても人手が足りていません。全部1人で、組織単独で抱え込むのではなく、信頼し合って一緒に進めていく企業・団体とのパートナー関係が広がっていくといいなと思っています。



株式会社 バンザイファクトリー  
一般社団法人 レッドカーペットプロジェクト  
代表取締役

## 高橋 知良

所在地  
岩手県 陸前高田市  
出身地  
岩手県 紫波郡矢巾町



## 「一人にひとつをありがとう」の商品づくり

岩手三陸の地場産品を使い、創意工夫で商品を開発し製造しています。「ありがとう」を伝える商品づくりを目指しています。感謝の気持ちを伝えられる物を創りたい。弊社の商品は全て自社工場で製造しており、「椿茶」の仕事は福祉施設さんとの連携し、三陸沿岸地域から葉の採取、そして一次加工を行い弊社が1Kgを2,000円で買取しております。

また、一般社団法人レッドカーペット・プロジェクトでは、被災した未活用土地で椿の継続的な植樹活動とメンテナンスを実施しています。



### - 連携団体

- 陸前高田市ユニバーサル就労支援センター
- 陸前高田市 B 型就労継続支援 障がい者施設、きらり
- 大船渡市 一般社団法人みらい就労継続支援 A 型ポプラ
- 社会福祉法人 大洋会就労継続支援 B 型事業所 星雲工房
- 労継続支援 B 型事業所 エクセルシオール
- 特定非営利活動法人 ワークスコープ
- 東京都日野市 社会福祉協議会 関連施設 5ヶ所

**21**  
団体

### - わたしが大切にしているインパクト

他にない商品を作る  
オンリーワンの世界を創る

**10**  
商品

被災土地に  
関わってくれた  
人の数

約 **3000**  
人

### - 年間予算

**3400**  
万円

### - 参画している仲間の数

	域内	域外
従業員	6	-
業務委託	3	-
アルバイト	2	-
プロボノ	-	-
ボランティア	-	2000

**2011**  
人

### 衰退していく日本の伝統工芸産業にテクノロジーで変革を

私は、岩手県の生まれです。日本の伝統工芸と言われる南部鉄器や輪島塗などの漆器、そして漆を塗る前の器の木のうち70%が岩手で生産されていたものだと知り、そのような伝統工芸産業が急速に衰退している事実を受けて、2006年にバンザイファクトリーを創業しました。

当時、伝統工芸の特に木工関係では三次元コンピューターやテクノロジーが殆ど活用されていませんでした。そこで、研究開発を行い、1人ひとりの手の握り方をコップに彫る切削技術を発明して「我杯」というオーダーメイドの木製カップをリリースしました。そのプロダクトの売れ行きが順調に伸びていき、2009年には田沢湖という隣の湖畔に工場を建てました。

2011年に起こった東日本大震災を機に、自分には何ができるだろうかと考え、やはり被災地で仕事を生み出すこと、それもサービス業やそこにいる人口を相手にする商売ではなく、地域の素材を生かしたプロダクトを生み出すことだと強く思いました。

震災後の2012年、陸前高田に引っ越しして家を建てました。地域の資源を使って、地域発のプロダクトをつくれれば強い雇用を生み出せるという考えのもと、10年を一区切りとして、最初の数年は商品開発をするための素材を探すことに費やしました。

### 地域の資源を使って、地域発のプロダクトをつくれれば強い雇用を生み出せる

### 日本原産である椿をみんなの手で三陸地域のプロダクトにする

震災直後に被災地に入って、素材探しをする人はなかなか居ませんでしたのでさまざまな困難がありました。たまたま会社で働いていた方が、被災された大船渡・陸前高田で唯一の精油場に嫁がれていたため、そこを復興させようと皆で考え椿を取り入れた商品開発に取り組みました。そのようにして一番最初につくったのが、「三陸星椿茶(バスタ)」で、当時、仮設住宅にいらした8名の方々と開発・販売をしました。

陸前高田市の花でもある椿についてさらに徹底的に調べてみると、いろいろな発見がありました。たとえば椿は日本が原産地で、国内では高級ブランドとしての認知はあまりないのですが、海外だとそのイメージが非常に強いそうです。ある大手企業が、過去に2回椿茶の開発に挑戦していた背景や、それでも失敗してしまった理由も分かりました。

その後、復興支援にいられていた数々の大学と連携して椿の群生調査を行い、大船渡の椿が地域資源として量と質ともに適していること、三陸地域には猛毒な茶毒蛾(ちゃどくが)が生息していないため安全に椿を採取出来ることになりました。この椿を『強い雇用を生み出さる地域の素材』として、その後も研究開発を重ね、2015年の春に「椿茶」をリリースしました。

この椿茶の生産には、ひきこもりの課題解決をめざして活動している「陸前高田市ユニバーサル就労支援センター」をはじめ、知的障がい者支援施設や身体障がい者支援施設など計7つの施設でさまざまな方々に関わっていただき、一次作業をお願いします。一次作業では、海岸に近い場所から生枝の小枝を採取し、作業場でハサミを使って一枚一枚葉を切り取ります。東京都の施設さんには、バンザイファクトリーが椿枝を採取して送付しています。こうして小枝の採取から葉の切り取りまでをいただいた椿葉を、1キロ当たり2000円からの変動価格制でバンザイファクトリーが買い取っています。

このような連携は社会貢献を意図して始まった取り組みではなく、震災の復興工事がひと段落ついたころに、施設の方からお声がけをいただいたのがきっかけでした。私たちは事業の観点から、自社で人を雇って椿葉を採取するより品質も効率も良い状

態で入手できるだろうと考えてスタート価格をお伝えしたのですが、それが従来の施設で請け負われている仕事と比べて数段高い価格だったそうなんです。我々としても大変ありがたく、施設の方々や利用者とそのご家族の方々にも喜んでいただけるような、非常に良い連携が生まれました。

### 災害を生き延びた日本最古の椿とともに「ありがとう」を伝えつづける

岩手県大船渡市には、県の天然記念物にも指定されている樹齢1,400年の三面椿があります。日本最大・最古の椿なので、世界で最も古い椿だとも言えるでしょう。そんな大木が、ここ大船渡にあるのです。

私たちがはじめた「レッドカーペットプロジェクト」は、被災地に椿を植える活動です。被災した土地は本来、植林には適していない土地のため、植えても植えても死んでしまう椿の木が多く、今でもとても苦労しています。それでも大変ありがたいことに、地域資源としての価値を理解し、災害にも負けず深く深く根を張る「三陸椿物語」にご賛同いただいて、地域の学校や施設とともに椿の植樹を支えてくださる企業や寄付者の方々が増えています。

### 地域の学校や施設とともに椿の植樹を支えてくださる企業や寄付者の方々が増えています。

多くの方々の手によって育てられた椿を再び施設の方々から採取し、私たちが買い取ることで商品の加工につなげ、地域の資源を生かした強い雇用を広げることが出来ます。

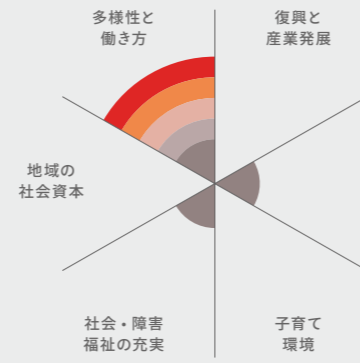
難易度が高ければ高いほど感動は大きいので、その感動を皆さんと分かち合いながら、これからは椿のマークとともに地域内外の皆さんへ「ありがとう」を伝える商品づくりをしていきたいと思っています。



アミクス株式会社 アミクスソーエン事業部  
代表取締役

## 高橋 真一

所在地  
宮城県 仙台市  
出身地  
宮城県 本吉郡南三陸町



すべてのひとがだれかを助け、だれかに助けられながら自分らしく働き続けられる社会。



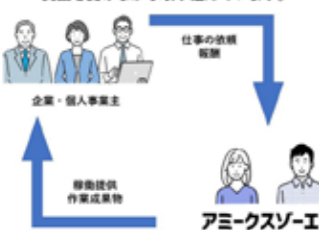
### 社会に出る準備支援

治療を受けながら体調を整え、自信を取り戻すお手伝いをしています



### リハビリも働きがいも

会社などから受注したデータ仕事や軽作業を支援を受けながら取り組んでいます。



#### - わたしが大切にしているインパクト

作業員への  
賃金支払い額  
**410**万円

受益者数  
**42**人

私たちは仙台市を拠点に主に精神疾患や発達障害を抱える方の社会復帰、社会とつながる場づくりとして、2つのコンセプトの事業を展開しています。

1つは家の外で活動する場、「アミクスカレッジ仙台」。コミュニケーションの練習や学習、就職活動支援を提供しています。東北では数少ない訪問支援も行っています。もう1つは働く場所「アミクス ZOEN」。短時間でもはたらきたい、自分ができることを見つけないという方に企業から弊社が会社を請け負い、取り組んでいます。

#### - 連携団体

- 宮城県内の支援機関・医療機関
- 全国の企業・個人事業主

#### - 年間予算

**216**万円

#### - 参画している仲間の数

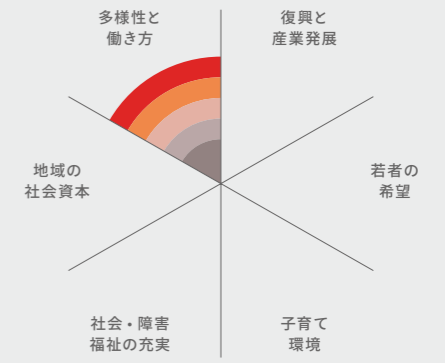
	域内	域外
従業員	6	-
業務委託	-	-
アルバイト	-	-
プロボノ	-	-
ボランティア	-	-
<b>団体</b>	<b>6</b>	<b>0</b>



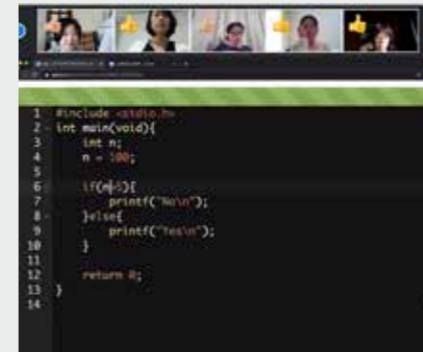
Sonomity  
代表

## 高橋 そのみ

所在地  
宮城県 仙台市  
出身地  
新潟県 新潟市



女性が ICT スキルとコミュニティを通じて自立して自分の人生を決められる社会の実現。



#### - わたしが大切にしているインパクト

「ICTスキルとコミュニティで女性の人生を自由に！」  
自立を目指す女性たちに ICT の講座やセミナーなどの機会を提供しています。2020年の春にスタートしたため、ほぼ全てがオンライン開催となりましたが、距離という壁を超えて多くの女性たちに学びの機会を届けています。

講座を受講した人数  
**70**人

実際に仕事を請け負うようになった人数  
**3**人

#### - 連携団体

- 一般社団法人 コード・フォー・仙台
- 一般社団法人 1mm イノベーション

#### - 年間予算

**100**万円

#### - 参画している仲間の数

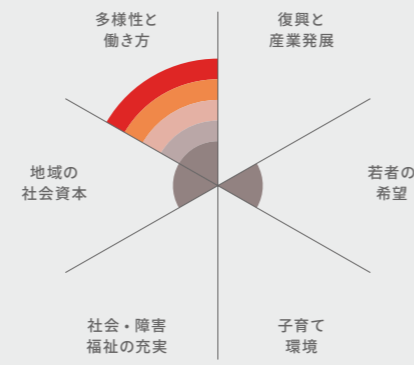
	域内	域外
従業員	1	-
業務委託	6	-
アルバイト	-	-
プロボノ	-	-
ボランティア	-	1
<b>団体</b>	<b>2</b>	<b>0</b>



ゲストハウスひととき（個人事業）  
オーナー

## 佐々木 祐子

所在地  
福島県 西会津町  
出身地  
福島県 郡山市



### ひとりひとりが自信をもって暮らせる社会を東北から。

ゲストハウスひとときは人口 5800 人の福島県西会津町に 2018 年に開業した小さな宿です。「ひとりひとりが自信をもって暮らせる社会を東北から」をビジョンに、宿として併設のカフェバーを舞台に地域の方から学生インターンまで、それぞれの「やってみよう」の一步を踏み出すきっかけを生み出しています。

2021 年からは学生インターンの受け入れを開始し、暮らしをともにしながらローカルでの暮らし方・生き方を町の方やゲストとの交流・対話を通じて学ぶ機会の提供を行っています。

#### - わたしが大切にしているインパクト

一步を踏み出す人の数

3  
人

学生インターンの受け入れ人数

21  
人

#### - 連携団体

- 西会津町（移住・定住 PR 等）
- 会津地方振興局（会津チャレンジャーライフ・地域コーディネーター）
- 福島県商工労働部商業まちづくり課（ふくしまみんなの空き家大学）
- 福島大学：キャリア講義（2019 年から毎年）

4  
団体

#### - 年間予算

200  
万円

#### - 参画している仲間の数

	域内	域外
従業員	2	-
業務委託	-	-
アルバイト	-	-
プロボノ	-	-
ボランティア	30	100

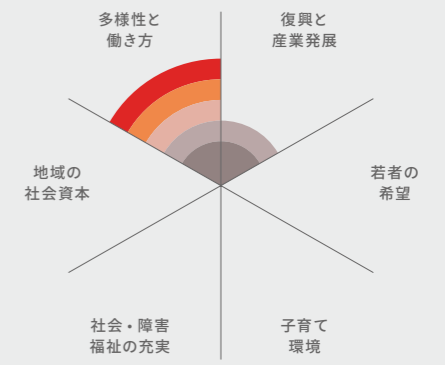
132  
人



株式会社 幸呼来 Japan  
代表取締役

## 石頭 悦

所在地  
岩手県 盛岡市  
出身地  
山形県



### 世の中のもったいないを織り成し、もったいなくゆたかな社会に。

岩手県盛岡市の伝統工芸「裂き織」を新しい産業として育み、地域の雇用と障がい者の働く場所の創出、彼らの能力の発信を目的として運営しています。裂き織は古布を細く裂いて織り直し布として再利用した生活織物です。

「もったいないを、もっとゆたかに」をモットーに、現代のニーズに合わせ、アパレルメーカーや企業から出るあまり布を弊社で裂き織にしてお返しし、新たな価値のある商品にして市場に流通させる仕組みを作り、取り組んでいます。

#### - わたしが大切にしているインパクト

裂き織を通して障がいのある方の力を知ってもらう。  
累計取引企業数

98  
社

弊社の取り組みを広く知ってもらう。

21  
媒体 (2019~)

#### - 連携団体

- 及源 造株式会社
- (株) 金入
- アシックス商事株式会社
- 株式会社 MOON SHOT
- ハンディクラフト 穂のか
- 京屋染物店
- 有限会社 井上企画
- 株式会社 MAYA SUSTAINERGY
- 公益財団法人いわて産業振興センター
- 盛岡商工会議所
- 岩手県中小企業家同友会 など

45  
団体



#### - 年間予算

3800  
万円

#### - 参画している仲間の数

	域内	域外
従業員	6	-
業務委託	2	-
アルバイト	18	-
プロボノ	2	6
ボランティア	10	3

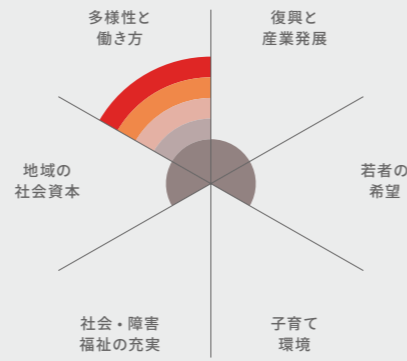
47  
人



**SRUST**  
美術作家・可変態ユニット [SRUST] 門番

## 吉村 尚子

所在地  
宮城県 仙台市  
出身地  
東京都 町田市



## 自分のシアワセは、自分で定義できる世界。

SRUSTは、千差万別な価値観を発掘・収集・発信することを目的に活動しています。「世間からの価値観の押し付け」が多くの人の生きづらさの原因となっていることを社会課題と捉え、それを解決することを目指しています。アート、音楽、数学、オンラインスキルなどのワークショップやイベントの実施など、多角的に事業を展開。文化や学びを通じ、「知ること」「考えること」「試すこと」を楽しみながら、「オリジナルなシアワセ」を模索するための場を提供しています。

### - わたしが大切にしているインパクト

事業を通じて「オリジナルなシアワセ」について考えた人の数

**453**  
人

千差万別な価値観を発掘・収集・発信するイベント・ワークショップ・制作物公開等の実施数

**93**  
件

### - 連携団体

- 一般社団法人 ワンエムイノベーション
- Sonomity
- 数学ユニット [SRUST]
- Proceed Music Store
- Sound Maneuvers
- 個人アーティスト
- 福祉サービス従事者
- ギャラリー
- 商店街
- など

**19**  
団体

### - 年間予算

**200**  
万円

### - 参画している仲間の数

	域内	域外
従業員	-	-
業務委託	8	-
アルバイト	-	-
プロボノ	-	-
ボランティア	10	5

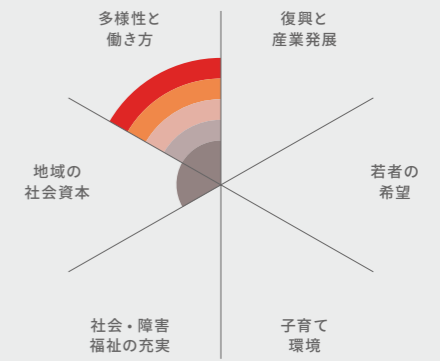
**23**  
人



**一般社団法人 ワンエムイノベーション**  
代表理事

## 浜出 理加

所在地  
宮城県 仙台市  
出身地  
北海道 函館市



## 女性のカラフルな感性が世界をHAPPYに！

私たちは女性が幸せに働き、生きるための選択肢を増やすことを目的に活動しています。特に地方において、様々な格差の影響で社会的に不利な立場に陥りやすい女性へ「学ぶ場所」「コミュニティづくり」「経済的な自立」を支援しています。今の時代にマッチした柔軟な働き方や新しい仕事の選択肢を増やしていくことを目指しています。

### - わたしが大切にしているインパクト

ウーマンテックエンパワメントプログラム参加者と最終発表参加者

**60**  
人

イベント・グループリフレクション・雑談会参加者延べ人数

**100**  
人

### - 連携団体

- NPO 法人シングルマザーズスターフード
- Japanese Women's Leadership Initiative (JWLI)
- 米日財団
- (公財) せんだい男女共同参画財団
- NTT 東日本 宮城事業部
- INTILAQ 東北イノベーションセンター
- 株式会社ユーメディア
- 株式会社グリーディー
- SRUST
- sonomity

**10**  
団体

### - 年間予算

**370**  
万円

### - 参画している仲間の数

	域内	域外
従業員	-	-
業務委託	3	-
アルバイト	-	-
プロボノ	-	2
ボランティア	-	-

**5**  
人



# " 生きたインフラ "

## 東北の社会起業家が 育み支える社会

本レポートでは、10名のココロイキルヒトリーダーズと22名のSIAプログラム卒業生に実施したアンケートとインタビューの内容をまとめています。

冒頭のIMPACT Summaryにある「数字で見る東北の社会起業家」では、それぞれの社会起業家が解決をめざす社会課題について、複数回答で重要視している課題の割合を示しています。複数回答といたしました理由は、社会課題が画一的・個別的なものではなく、有機的に結びついていると考えられるためです。ココロイキルヒトリーダーズとSIA卒業生の傾向を見ると、前者が復興と産業発展に重点が置かれており、後者は多様性と働き方に取り組みされている割合が高いことが見受けられます。東日本大震災から11年経ち、被災地域に根差した地域資源の発掘・事業化を中心とした「復興」から、人口減

---

**「復興」から、  
人口減少や少子高齢化など  
日本全体が抱える課題領域へ**

---

少や少子高齢化など日本全体が抱える課題領域へと着眼点に移りつつあり、そうした必要性にも応じる形でイノベーションを起こそうと奮闘する社会起業家たちの変化も読み取ることができます。

定量的な評価においては、ココロイキルヒトリーダーズ、SIA卒業生ともに、官公庁・地方自治体と密に連携して公的資金を活用した社会的事業の展開が行われていることがわかります。補助金・助成金に対する民間資本の割合は、SIA卒業生で高くなっています。これは、ココロイキルヒトリーダーズの活動歴(平均8.9年)が、SIA卒業生(平均4.5年)の倍であることを考えると、近年、より一層の民間資本がソーシャル・イノベーションに投下される傾向にあると捉えられます。

---

**近年、より一層の民間資本が  
ソーシャル・イノベーションに  
投下される傾向にある**

---

「東北の社会起業家が見る数字」では、32名の回答者がどのような指標を自身のインパクトと紐づけて追っているかが記載されています。ここでは、売上や経常利益という指標ではなく、事業の持続可能性や組織内外の受益者に関連づけられたさまざまな指標が置かれています。それぞれの指標に着目することにより、事業の持続可能性を追求しつつ、事業を通して社会にもたらされるインパクトに重きをおいて活動されていることがわかります。社会起業家の特徴は、複雑に絡み合う社会の課題を構造化して自身の事業に落とし込み、それがどれくらい解決に貢献できているかを常に確認しながら、持続可能な事業の実践を通じて社会のステークホルダーに変革を促すところにあります。本レポートにご協力くださったココロイキルヒトリーダーズとSIA卒業生の計32名はまさに、社会的インパクトの追究と活動の持続性担保の両立を実現されている、真の社会起業家と言えるような方々です。

本レポートでは、東北の社会起業家たちが、どのような状況にいる、どんな人たちに対して、事業を通じてどのような影響を及ぼしたいのかについて詳細に取り上げています。多くの場合において、イノベーションという言葉からは、AIやIoTをはじめとしたIT技術革新に関する内容が想起されますが、ソーシャル・イノベーションはPeople Basedな(人を中心に置いた)革新と言えます。ソーシャル・イノベーターたちは、それぞれの地域にある資源を生かし、地域に生きる人々の想い、生き方、立場に配慮しながら地域外のさまざまな資源とつなぎ合わせることで、セクターの垣根を超えた新しい連携を生み出しています。彼・彼女たちは常により良い未来をまなざし、時と場合によっては事業の広がりではなく深みを追求し、一步一步進む中で得たノウハウをも分かち合っ

---

**地域にある資源を生かし、  
地域に生きる人々の想い、  
生き方、立場に配慮しながら  
地域外のさまざまな資源と  
つなぎ合わせる**

---

社会にポジティブなインパクトを与えようと志す人々です。東北の社会起業家たちによって紡がれる物語とつながりこそが、「生きたインフラ」となり、次なる新しい変革の支えとなっていくでしょう。

日本はいままさに、人口減少や少子高齢化などさまざまな社会課題を世界に先んじて経験しています。課題先進国で挑戦を続ける東北の社会起業家たちの実践からは、持続可能で豊かな社会の在り方のヒントが詰まっているのではないのでしょうか。



# 震災から10年、 科学は課題解決に 貢献できたのか？

仙台ソーシャルイノベーションサミット 2022 キーノートスピーチより



## 東日本大震災は東北大学が 研究機関として、そして 研究者が研究者としての アイデンティティを考え直す きっかけでした。

東日本大震災は東北大学が研究機関として、そして研究者が研究者としてのアイデンティティを考え直すきっかけでした。私はもともとコンピュータービジョンやバイオメトリクスなどと呼ばれる生体認証を専門としています。現在、世界中で取り扱われるデータの量は膨大で、ゼタバイト (ZB) という日常では聞き慣れない単位のデータ量になっています。また、東北大学に設置されたバイオバンクである東北メディカル・メガバンク機構では10ペタバイト (PB) を超える生体データを扱っています。一方、震災後、亡くなられた方の身元確認のため被災地で歯科医師ボランティアの方々と共に歯科データによる調査体制をつくりました。身元確認に使用したのは32本の歯を示すたった12バイトのデータでしたが、その社会的

インパクトに衝撃を受けました。データの取り扱いには私自身慣れていて思っていたのですが、社会におけるデータの量と質、そのデータが持つ本質的な価値は軸によって変化するという事を思い知ったのです。そのときの経験から、大学は社会課題やグローバルイシューをはじめとした、人類にとって重要な課題を解決するプラットフォームになっていくべきだと考えるようになりました。自分たちが社会のために何ができるのだろうか、と日々問い続けています。

2015年に、大変重要な三大国際アジェンダが発表されました。1つ目が、国連で採択された『持続可能な開発目標 (SDGs)』です。2つ目は、第21回国連気候変動枠組条約締約国会議 (COP21) で採択された『COP21パリ協定』。3つ目が、仙台で開催された第3回国連防災世界会議で採択された『仙台防災枠組』です。この3つ目の枠組みで、①災害リスクの理解、②災害リスクの管理、③レジリエンス向上のための防災投資、④十分な備えとビルド・バック・ベターという4点が優先行動として社会全体に認知され、“BOSAI”が世界共通言語にな

るきっかけとなりました。

こうした世界的な流れの中で、東北大学では東北大学震災10周年シンポジウムを通じて、震災時の緊急対応、回復を後押しする一人一人の取り組み、復興に向けた重点研究の推進と社会実装という3点について整理いたしました。また、『復興アクション100+』という提案型プロジェクトの実践からは、東北大学構成員が自発的に取り組んできた災害復興への努力が顕著に感じられました。震災を機に、自分自身の研究がどのようにして社会のために活用できるかということ、研究者自らが考えるようになっていったのです。復興のための重点研究の推進と社会実装に向けたさまざまなプロジェクトが、こうしたひとりひとりの意志によって、現在に至るまで続いています。

## 自分自身の研究が どのようにして社会のために 活用できるかということ、 職員自らが考えるように

研究から生まれるイノベーションを支える場としては、他にも、2012年4月に設置された「実践型防災学」の創成を目指す文理融合型研究所の災害科学国際研究所、「地域イノベーションを駆動する人材育成」を目的とした地域イノベーションプロデューサー・アドバイザー塾、仙台市との協働のもと、「超現場主義の産官学連携を通じた社会貢献」を目的とするIIS(情報知能システム)研究センターなどがございます。

## 「超現場主義の 産官学連携を 通じた社会貢献」

これら数々のプロジェクトによって、“BOSAI”への意識が高まったアカデミアの目線と、科学・学術の目線が織り混ぜられた社会課題解決の種が生み出されています。

ただし、この二者の目線だけでは、技術中心の社会課題解決となります。仙台市と共に取り組んでいるスーパーシティ構想では、技術中心の課題解決から人間中心の課題解決に移行することを掲げています。社会と科学の接点が広がり、それぞれの立場で、価値を最大限発揮できる役割を全うすることによる共創の実現が理想です。そのためには、市民の皆さんの目線が最も大切となります。社会起業家の皆さまの活動を大学が後押しさせていただくことで大学のサイエンスを市民につなげていき、このスーパーシティ構想を通じて共に社会変革を起こしてパートナーとして、これからも一緒させていただけることを心より楽しみにしております。

## 仙台市と共に取り組んでいる スーパーシティ構想では、 技術中心の課題解決から 人間中心の課題解決に移行 することを掲げています。

**東北大学**  
理事・副学長  
企画戦略総括担当  
プロボスト  
CDO

## 青木 孝文

1997年に東北大学大学院工学研究科 電子工学専攻 博士課程修了。2002年より同大学の大学院情報科学研究科の教授に就任。コンピュータ工学、画像工学、生体認証(バイオメトリクス認証)、歯科的個人識別技術、暗号とセキュリティ、分子コンピューティングの領域を専門とし、東日本大震災では宮城県警および歯科医師会と連携し亡くなられた方の身元確認の支援活動に従事。

## 4. Epilogue

# 現状の課題と 今後のアクション

本レポートに掲載されている32名の社会起業家とそれぞれが連携されている地域内外のステークホルダーをご覧くださいと、ソーシャル・イノベーションのエコシステムが着実に構築されていることがわかります。INTILAQ 東北イノベーションセンターでも、2017年からSIAプログラムを企画運営しながら、これまでに5,000名以上のイベント/ワークショップの参加者を受け入れ、100名以上の社会起業家の伴走支援を行い、200名以上のプロボノや大企業人材とつなげるなど実績を残してきました。

一方で、2020年からの新型コロナウイルス感染症拡大をはじめとして、社会が直面する課題は増加、複雑化を続けており、それらの課題を身近なところから解決する社会起業家の重要性は益々高まっています。ソーシャル・イノベーション・エコシステムはまだまだ発展の余地があり、社会起業家同士の連携のみならず、全国の個人・組織がそれぞれの立場から、ソーシャル・イノベーションに関わることでできる体制づくりが求められています。

そのためには、それぞれの社会起業家が追求する社会的インパクトが見える化されるだけでなく、ひとつひとつの課題がどのくらい解決されているかなどをデータに基づいて整えていく必要があります。データベースを構築することにより、それぞれの地域における社会課題の現状や社会起業家の実績とインパクトが客観的に分かりやすく表現できるだけではなく、地域や課題に対して同じような想いを持つ仲間たちが参画しやすい環境を実現することができます。

こうした環境の実現に向け、SIAプログラムを主催する仙台市、そしてプログラムにご参画いただいている官公庁・地方自治体・金融機関・パートナー企業などすべてのステークホルダー皆さまとの連携をこれまで以上に深め、ソーシャル・イノベーション・エコシステムのさらなる発展に寄与できることを願っております。

# なぜ東北の地で 多くの社会起業家が 生まれるのか？

SOCIAL ENTREPRENEURS IMPACT REPORT in Tohoku 作成を終えて

弊社団が仙台市とともに本格的に社会起業家の支援を開始して5年以上が経過しました。これまでに、起業家イベントやワークショップを通じてのべ10,000人以上の方々と接し、全国から集まった300名以上の登壇者、支援者、講師やメンターの方々のご協力やご参加を得て、社会起業家アクセラレータプログラム（SIAプログラム）を中心に100名以上の仙台・東北の社会起業家の育成、支援を行なってまいりました。そのインパクトは、仙台・宮城を中心に、東北6県に広がっています。

近年、SDGsへの注目等、「ソーシャル」の重要性への認識が日本国内でも高まる中、震災後10年が経過し、私どもの支援活動も5年を超えてきたこのタイミングで、これまでの東北の社会起業家たちの活動や成果を整理、可視化し、東北内外に共有させていただくべく、本レポートの作成をいたしました。作成にあたりご協力をいただいた社会起業家の皆様、並びに仙台市含めた行政や支援機関・団体の皆様に、まずは心より御礼申し上げます。

## なぜ東北の地で多くの 社会起業家が生まれるのか？

私自身も、元々縁もゆかりもなかった立場から、東日本大震災の復興支援をきっかけに東北に入り、そして今でも活動を続けている1人です。なぜ東北の地で多くの社会起業家が生まれるのか？、この質問に、何度も向き合ってきました。

## 最もシンプルな回答は、 「そこに課題があるから」 ただし、もちろん課題があるだけでは、 起業家は生まれません。

恐らくその最もシンプルな回答は、「そこに課題があるから」です。この10年の東北を振り返ると、人口減や少子高齢化など、日本の地方共通とも言える社会課題が、東日本大震災を経験した東北の地でより深化を続けました。実際に、2010年から2040年の東北地方の人口減少率平均は26.5%と、全国平均の20.3%を大きく上回るほか、2025年における東北地方の65歳以上の人口割合平均も35.1%と、全国平均32.4%を上回る見込みです。震災からの復旧・復興という課題に加えて、これら社会課題が全国の地方に先んじて東北で深化し、さらに2020年から急速に広がった感染症の拡大が、これら社会課題をさらに複雑化させる大きな要素になりました。

ただし、もちろん課題があるだけでは、起業家は生まれません。ましてやその課題が、複雑に要因が絡み合っている上に、解決のためのお金の支払い手も不明確な社会課題であればなおさらです。

ここ東北では、主に2種類のルートで多くの社会起業家が生まれました。東日本大震災からの復興支援活動をきっかけに東北の外から入ってきた社会起業家たち、

さらに地元で震災を経験して「地域のため、社会のため」という価値観をより強くし、自ら立ち上がった東北生まれの社会起業家たちです。両者に共通するのは、経済的価値よりも、社会的価値をより重要視する姿勢、つまり、何より自らが取り組む地域や社会の課題解決に繋がっているかどうかを第一に考え、行動する「あり方」です。この「あり方」に、多くの仲間や支援者たちが共感し、その共感の輪が、彼ら・彼女らの活動の大きな推進力になりました。実際、毎年ハーバード・ビジネス・スクールの学生たちがボストンから東北に足を運ぶのも、まさにこの「あり方」（= Being）を身を以て感じるためでした。

## 社会起業家が生まれ、育つ 「エコシステム」構築に向けて

このような社会起業家たちは、自然に生まれ、育ち続けるのでしょうか？

そうであれば理想的だと思う反面、「自然に」というのはとても難しいだろうなど感じるのが本音です。社会的価値だけでは組織や活動を継続させることはできないですし、だからと言って経済的価値を求めすぎるとそもそもの「あり方」から外れてしまう、そのバランスを取る難易度が極めて高いからです。本レポートでは、そんな社会起業家たちの「リアル」を、定性的にはもちろん、なるべく定量的にも整理し、まとめるように努めました。

実際に約1年間をかけて調査とヒアリングを重ねる中で、実に多くの発見がありました。今回ご協力いただいた32名の社会起業家たちだけでも、そのビジョンや想い、「あり方」（= Being）で、実に10,000人以上の仲間たちを巻き込み、総額33億円もの資金を用いて、のべ100万人以上にリーチしてきていることが分かりました。総額33億円の尊い資金の半分以上は、事業収入を含めた自己資金（10.6億円）と民間資本（6億円）によって賄われており、公的資金に頼らずとも継続、成長している組織・団体も数多く見られています。何より、彼ら・彼女らの事業や活動そのものが、多くの方々に救い、そして笑顔の連鎖を創り出しているのが、それぞれが大切にしている指標からよく理解できました。

## 事業や活動そのものが、 多くの方々に救い、 そして笑顔の連鎖を 創り出している

これらの成果は、東北の社会起業家たちのほんの一部の成果です。しかし、その一部を整理しただけでも見えてくるこれら成果に光を当てて、より多くの方々にその支援の輪に加わっていただきたい、彼ら・彼女らの想いや「あり方」に触れて少しでも巻き込まれていただきたい、その積み重ねこそが、社会起業家が生まれ、育ち続けていく「エコシステム」構築に繋がるのだと信じています。

東日本大震災から11年目を迎える今、ここからの10年間でそんな「エコシステム」が動き出す10年間になるよう、地域も業界も組織も超えて、多くの皆さんと一緒にできることを楽しみにしています。

末筆ながら、本レポートを共にまとめ上げてくれたICHI COMMONSメンバーにも、心から御礼申し上げます。

一般社団法人  
IMPACT Foundation Japan  
代表理事

## 竹川 隆司

野村證券にて国内、海外勤務等を経て、2011年より米国にてAsahi Net International, Inc.を設立。同社代表取締役として教育支援システム事業のグローバル化を推進。2014年より東北の復興支援活動に参画、「東北風土マラソン&フェスティバル」立上げ。また一般社団法人インパクトジャパンにて、東北での起業家育成・支援プロジェクト「INTILAQ」を主導。2006年ハーバード大経営学修士（MBA）。

# SOCIAL ENTREPRENEURS IMPACT REPORT

in TOHOKU

東北社会起業家が生み出すインパクト

March 2022

Ver.1.1

発行



一般社団法人 IMPACT Foundation Japan

INTILAQ 東北イノベーションセンターを運営。世界の起業家、イノベーター、起業支援機関と連携し、アントレプレナーシップとイノベーションを推進する。さまざまなプログラムを実施しながら、次世代のリーダー達を輩出するために、必要不可欠であると思われる起業家精神を養成し、一人ひとりが、革新的な考えやアイデア醸成ができる強みを持たらすプラットフォームを築き上げようと活動する。

制作

ichi commons

ICHI COMMONS 株式会社

つながりと取り組みを“見える化”。社会課題解決のための連携・情報発信プラットフォーム『ICHI.SOCIAL』を運営。企業、社会的事業、自治体、個人が、共通の社会・地域課題の解決のために連携し、ひと、モノ、おかげ、情報を提供しあうことで、「いい社会」のために、つながり、輪を広げていける場をめざしている。

